

第 4 章

地域別構想



第4章 地域別構想

4-1. 基本的考え方

宮若市全体の整備方針を市民の暮らしにより身近な計画とするために、市域を9つの地域に区分して、地域の実状に応じた整備方針を定めます。

この地域別整備方針では、全体構想を踏まえながら、地域の概況や市民の意識、及び市民ボランティア会議における検討結果などを基に、各地域の将来像を設定し、地域づくりの方針を示したものです。

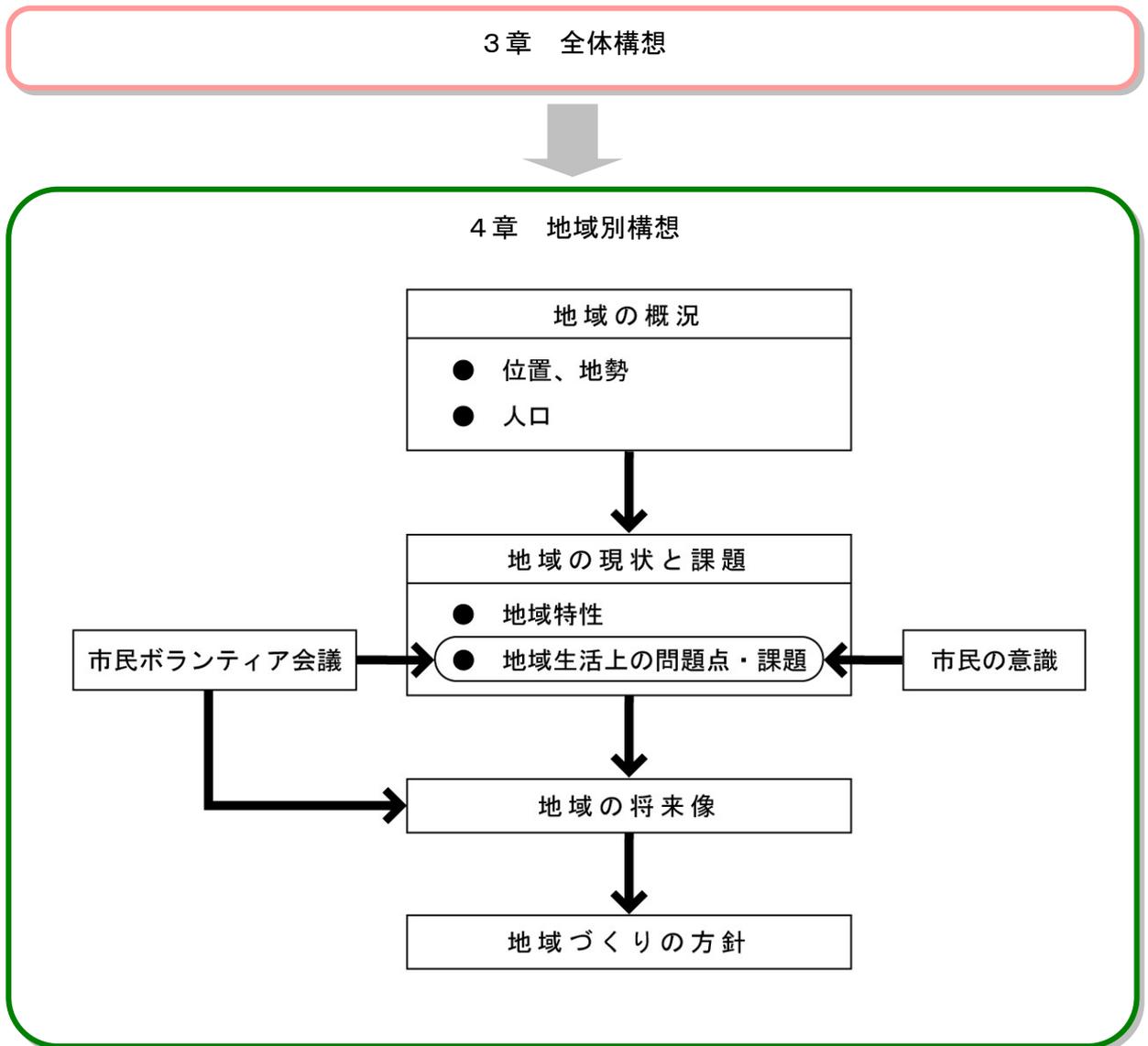


図 地域別構想の基本的な考え方

4-2. 地域区分の設定

地域別構想は、市民の生活と密接に関係した地域設定を行うために、市内における10の小学校区を基に、以下の9地域を設定しています。

- ① 宮田南地域
- ② 宮田北地域
- ③ 宮田東地域
- ④ 宮田地域
- ⑤ 笠松地域
- ⑥ 若宮地域
- ⑦ 山口地域
- ⑧ 若宮西地域
- ⑨ 吉川・若宮南地域



4-3. 地域別構想

宮田南地域

— 将来像 —

住みやすいまちから 住みたいまちへ

～様々な世代の人が暮らしやすく住みたくくなるような魅力ある中心拠点づくり～

(1) 地域の概況

■位置・地勢

宮田南地域は市の中央東部に位置し、南を飯塚市と接する地域です。

地形は大きく北部の平坦部と南部の山間部で構成され、北部を一級河川である犬鳴川が横断し、中央を八木山川が縦断しています。

犬鳴川及び八木山川北側の流域には平坦部が広がり、市の中心となる市街地や水田、集落地が形成されています。

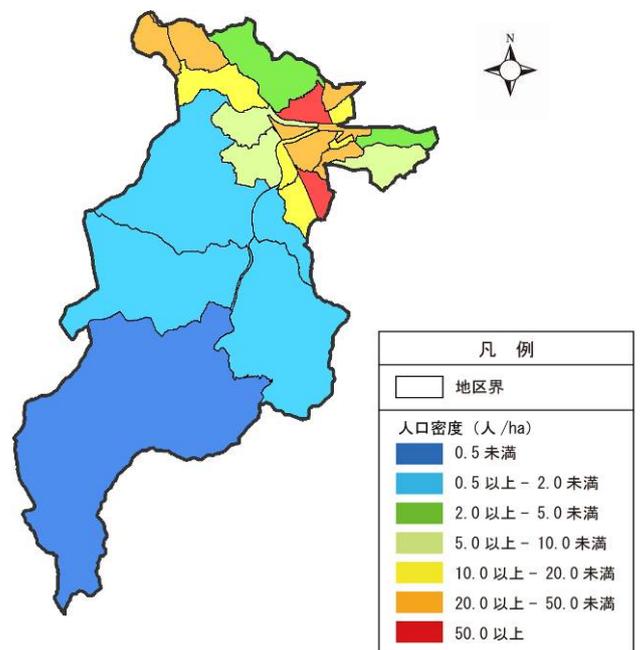
南部一帯は笠置山をはじめとする山々に囲まれており、その豊かな自然環境は太宰府県立自然公園の一部に指定されています。



■人口

人口は、平成17年現在約6,700人であり、市全体の22%に相当します。

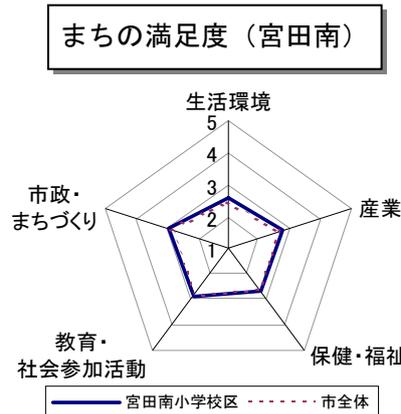
地域のなかでは、北部に人口が集中しています。



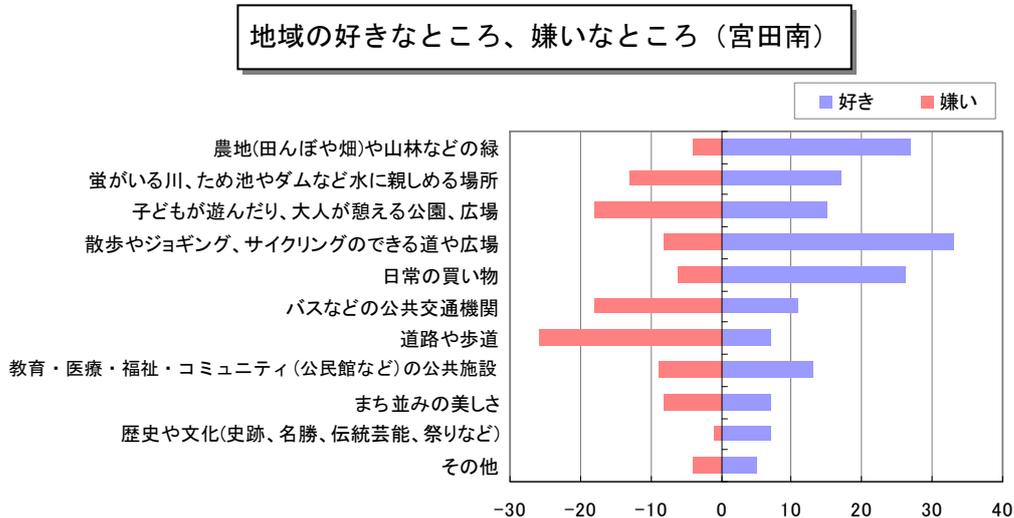
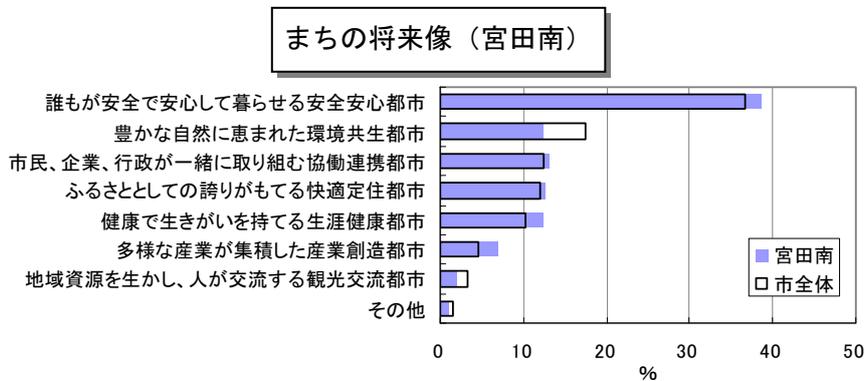
注) 人口密度の母数となる面積は、道路や水面などが居住できない土地を除いた面積としています。

■市民の意向

- ・ まちの満足度は、市全体とほぼ同じ傾向にあり、全項目において満足度が低くなっています。
- ・ 地域の人々が求めるまちの将来像は、安全・安心な暮らしの意向が強いとともに、市全体と比べて健康で生きがいのあるまちづくりを望む声も多い傾向にあります。
- ・ 地域の好きなどころとして、農地や山林などの緑や散歩道、日常の買い物が多く挙げられていますが、道路や公園、公共交通などには改善が求められています。



注) グラフの数値は、回答項目の「非常に満足」に5、「おおむね満足」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満」に2、「非常に不満」に1とそれぞれに数値を与え、回答者との加重平均をしたものである。5に近いほど評価は高く、1に近いほど評価は低い。



(2) 地域の現況と課題

■土地利用

- ・ 北部の犬鳴川と八木山川が合流する平坦部一帯には、市役所や中央公民館などの公共施設が集積しており、本市の中心となる市街地ならびに住宅地が形成されています。
- ・ 市役所周辺から主要地方道 福岡直方線沿線にかけて商業地が形成されていますが、隣接市における大型店舗の進出や人口減少などにより賑わいが衰退しており、市の中心市街地として、商業機能の再生と魅力あるまちなみの形成が課題となっています。
- ・ 南部の千石峡一帯には恵まれた自然環境が広がっていると同時に、八木山川流域北部には水田ならびに農村集落が形成されており、今後も豊かな自然地、田園地、住環境を保全していくことが望まれます。
- ・ 旧宮田駅や宮田線跡地の一部や北端部に残存する遊休地について、周辺環境や土地利用に応じた土地の有効活用が課題となっています。
- ・ 東端部には桐野工業団地が整備されていますが、企業の定着化が課題となっています。
- ・ 当地域においては、市街地や自然地など多様な土地利用を有することから、その位置付けを明確にしていくことが必要です。

■交通体系

- ・ 主軸となる幹線道路として、主要地方道 福岡直方線、飯塚福岡線、宮田小竹線が配されています。
- ・ 都市計画道路として、勝野長井鶴線、羅漢龍徳線、桐野本城線、桐野太蔵線、宮田本白線、片鉾辨鳥線が整備・計画されています。
- ・ 一部の道路では、歩道やガードレール、信号機の未整備区間が残されており、歩行者の安全性が懸念されています。
- ・ 主要地方道 福岡直方線沿いの宮田バスセンターには、市内各所や直方市など近隣都市へアクセスする路線バスが乗り入れています。建物の老朽化や利便性の向上などが課題となっています。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスが運行していますが、高速バスの拠点となる若宮インターチェンジやJR福岡駅、廃止された赤間方面などへの連絡強化が求められています。

■公園・緑地

- ・ 南部の太宰府県立自然公園の一部に位置する千石峡には、いこいの里“千石”が整備されており、千石公園や水辺公園、バンガローのあるキャンプ場、つり橋などが整備され、市民の憩いの場となっています。
- ・ 千石峡は市内でも有数の観光資源であることから、豊かな自然環境を保全しつつ、現存する施設を生かした利用客の増加や一年中楽しめる行事などの工夫が求められています。
- ・ 長井鶴には二輪車を対象とした安全運転の技術練習場として、宮若市交通公園が整備されていますが、犬鳴川や八木山川などの豊かな水資源を生かした親水空間が不足しています。
- ・ 住宅市街地内には、生活に密着した身近な公園が不足しています。

■その他の都市施設

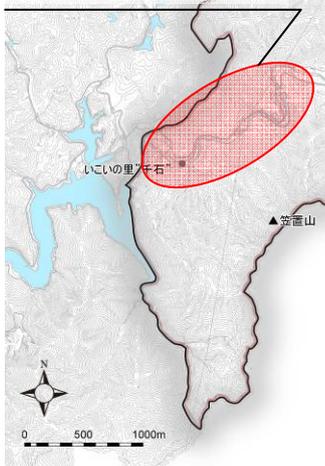
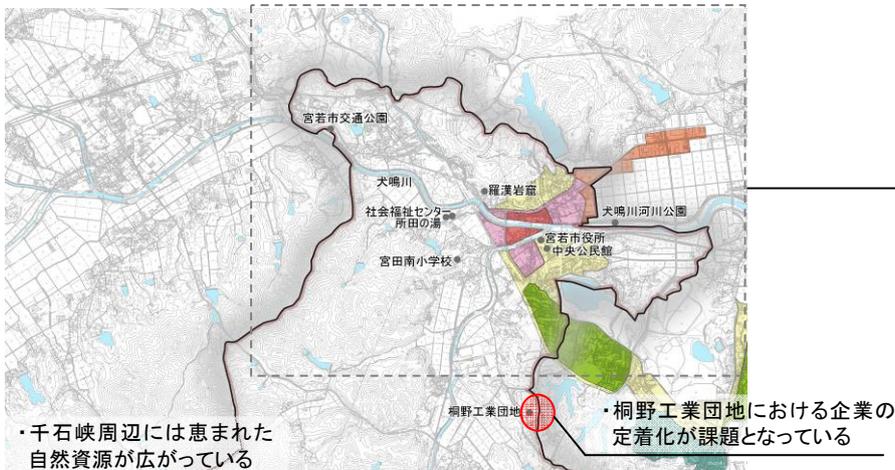
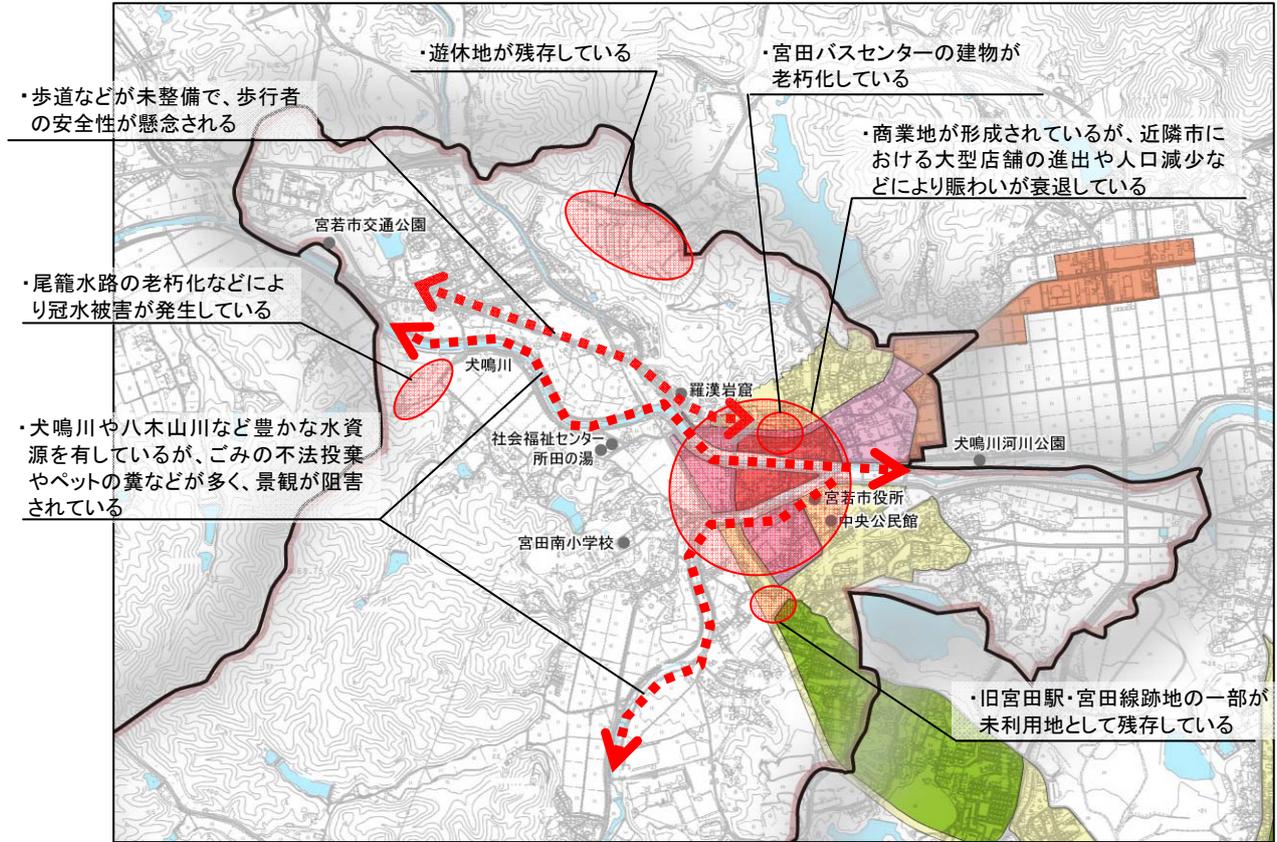
- ・ 上水道は全域において概ね整備されており、良質な水が各戸へ提供されています。現在のおいしい水が将来にわたり提供できるよう、水源地や水質を保全していくことが必要です。
- ・ 下水道は、遠賀川中流域下水道事業により整備が進められていますが、未供用地区の早期整備が求められています。

■市街地整備

- ・ 市役所周辺の中心市街地は人口減少や商業施設の撤退などで賑わいが衰退しており、市の中心拠点にふさわしい活力の再生や定住化が課題となっています。
- ・ 市街地や住宅地には狭隘な生活道路が多く、自動車の円滑な通行に支障をきたしているとともに、歩道も整備されていないことから歩行者・自転車の安全性が懸念されています。
- ・ 住宅市街地の一部では、防犯灯が少なく、夜間の安全性が懸念されています。

■都市景観・都市環境

- ・ 長井鶴周辺では都市計画区域以外の法適用がなされていない白地地域が存在しており、無秩序な開発や周辺環境と調和しない開発などがなされる恐れがあります。
- ・ 散歩道でもある犬鳴川や八木山川沿いには、ごみの不法投棄やペットの糞の放置などが多く、景観が阻害されています。
- ・ 地域を通過する幹線用排水路である尾籠水路は老朽化が著しく、また断面不足により通水に支障をきたしていることなどから、一部において豪雨時に田園地などが冠水する被害が発生しています。



凡例	
用途地域種別	
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	工業地域

▲地域の現況・課題図

(3) 地域の将来像

『住みやすいまちから 住みたいまちへ』

宮田南地域では、今後とも都市機能の集積を行いながら、多様な世代の人が暮らしやすい環境整備を図り、魅力的で住みたくくなるような本市の中心拠点づくりを進めていきます。

地域内には行政や文化をはじめとした本市の中核的な都市機能が集積しており、市内各所や市外からの交通アクセスを維持・充実するとともに、市街地内での移動の快適さを向上させながら、多様な人、世代による交流の活性化を図ります。

本市の主要河川である犬鳴川や八木山川、千石峡、所田の湯、様々なお祭りなどの地域資源を多く有しており、これら資源の活用などを通じながら、地域コミュニティの維持・形成を進めていきます。

(4) 地域づくりの方針

■土地利用

- ・ 住宅地及び集落地については、生活道路、公園、下水道など生活基盤施設の整備により快適な住環境の形成を図り、豊かで活力のある住宅地・集落地の形成に努めます。
- ・ 市役所周辺の中心市街地は、公共施設や商業・業務施設が集積する市の中核となる都市機能を維持・強化しつつ、周辺住宅地や田園地との調和を図りながら、賑やかで魅力ある市街地形成を図るとともに、高齢者をはじめとして誰もが暮らしやすい環境づくりを進めます。
- ・ 旧宮田駅や宮田線跡地の未利用地は、身近な公園の整備など、周辺環境と調和した土地利用形成を進めます。
- ・ 遊休地については、本市の活性化に寄与するような計画的な土地利用方法について、検討を進めます。
- ・ 千石峡をはじめとする南部の豊かな自然環境は、貴重な地域資源であることから、将来に渡り積極的に保全していきます。
- ・ 工業拠点である桐野工業団地は、工業地としての魅力を高め、企業の定着化に努めます。

■交通体系

- ・ 広域的な道路ネットワークを担う幹線道路においては、関係機関と協議を進めながら、車道や歩道の拡幅、バリアフリー化などの機能強化を促進します。
- ・ 都市計画道路のうち未整備である勝野長井鶴線、桐野本城線、宮田本白線、片鉾辨鳥線については、関係機関と協議しながら、市街地の骨格を形成する道路軸として整備を進めます。
- ・ 歩道の整備や横断歩道及び信号機の整備などを推進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 宮田バスセンターについては、バス交通の利便性の向上を促進するとともに、市内への入口としてふさわしい付加的な施設整備などについて、事業者と協議・検討を進めます。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスは、高齢者をはじめとした交通弱者の重要な交通手段であることから、市内各所や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などとの連絡維持・強化に努めます。また、バス路線が存続するよう、より一層の利用促進を図ります。

■公園・緑地

- ・ 千石峡の恵まれた自然環境を生かし、自然交流拠点であるいこいの里“千石”を中心としたレクリエーション機能の維持・充実を図るとともに、四季を通じたイベントの開催などにより、その魅力を市内及び市外へと広く情報発信します。
- ・ 犬鳴川や八木山川の河岸における遊歩道やサイクリングロード*などの整備について、関係機関との調整を図ります。
- ・ 市民の生活に密着し、子育てや地域のコミュニティ形成などの機能をもった身近な公園について、既存施設の活用方法を検討し、利用推進を図るとともに、未利用地を活用した公園の整備について検討を進めます。

■その他の都市施設

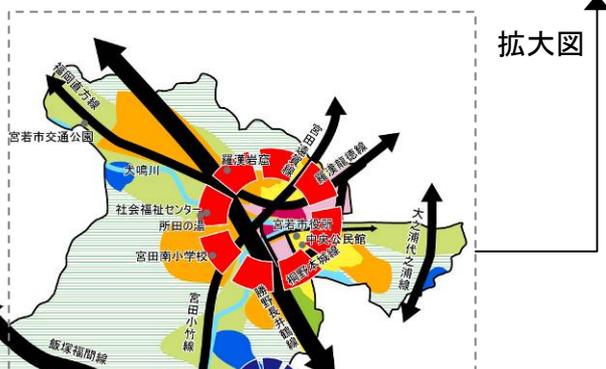
- ・ 上水道については、安全でおいしい飲料水を安定して提供するため、水源・水質の保全や水道施設の適切な維持・管理を行います。
- ・ 下水道については、公共下水道の早期整備を推進するとともに、下水道計画区域外においては合併処理浄化槽の設置を促進します。

■市街地整備

- ・ 中心市街地内の骨格となる都市計画道路の宮田本白線、片鉾辨鳥線の整備を推進します。
- ・ 中心拠点である市役所周辺の中心市街地においては、1階は店舗で2階は住宅といった下駄履き住宅*や低中層集合住宅などの立地を促進し、土地の複合的利用を図ります。
- ・ 中心市街地に図書館を核とする生涯学習施設を建設し、市道や駐車場、サインなどの整備を推進します。
- ・ 市街地や住宅地及び集落地内においては、狭隘な生活道路の改良、側溝蓋の敷設を推進するとともに、防犯灯の設置を促進し、歩行者の安全確保に努めます。

■都市景観・都市環境

- ・ 無秩序な開発や市街地の拡散の抑制、屋外広告物条例による規制誘導などを推進し、良好なまちなみ景観の形成に努めます。
- ・ 河川や水路の水質保全のため、公共下水道の整備や市民ボランティアを通じた河川の清掃活動、市民へのマナー啓発などを推進し、市民の美化意識の向上を図ります。
- ・ 尾籠水路をはじめとする排水施設について、改修整備と定期的な点検などによる適切な維持管理を推進します。



凡例			
	低層系住宅市街地		集落地
	一般住宅市街地		田園地
	沿道型住商混在市街地		自然水
	商業業務地		水面
	工業地		幹線軸
	広域幹線軸		地域交流軸
	中心拠点		交流拠点
	地区拠点		自然交流拠点
	集落拠点		スポーツ・レジャー拠点
	工業拠点		

・豊かな自然資源の保全

＜工業拠点＞
・工業地としての魅力向上による桐野工業団地での企業の定着化

＜自然交流拠点＞
・いこいの里“千石”を中心としたレクリエーション機能の維持・充実

＜地域全体＞

- ・生活基盤の充実による快適な住環境形成
- ・主要幹線道路の機能強化促進
- ・歩道、横断歩道、信号機の整備
- ・バス交通の市内各所や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などへの連絡維持・強化、利用促進
- ・身近な公園の活用方法検討、利用促進
- ・下水道の整備・合併処理浄化槽の設置促進
- ・生活道路における狭隘道路の改良、側溝蓋の敷設、防犯灯の設置促進
- ・屋外広告物条例などによる良好なまちなみ形成
- ・排水施設の定期的な点検・改良などによる冠水対策

▲地域づくり方針図

宮田北地域

— 将来像 —

六ヶ岳と先人に学ぶまち

～六ヶ岳をはじめとする自然環境と歴史を生かした地域づくり～

(1) 地域の概況

■位置・地勢

宮田北地域は市の北東部に位置し、鞍手町、直方市、小竹町と接する地域です。

北側を六ヶ岳、東側を鴨生田池周辺の小高い山々に囲まれ、地域の中央には犬鳴川が横断しています。

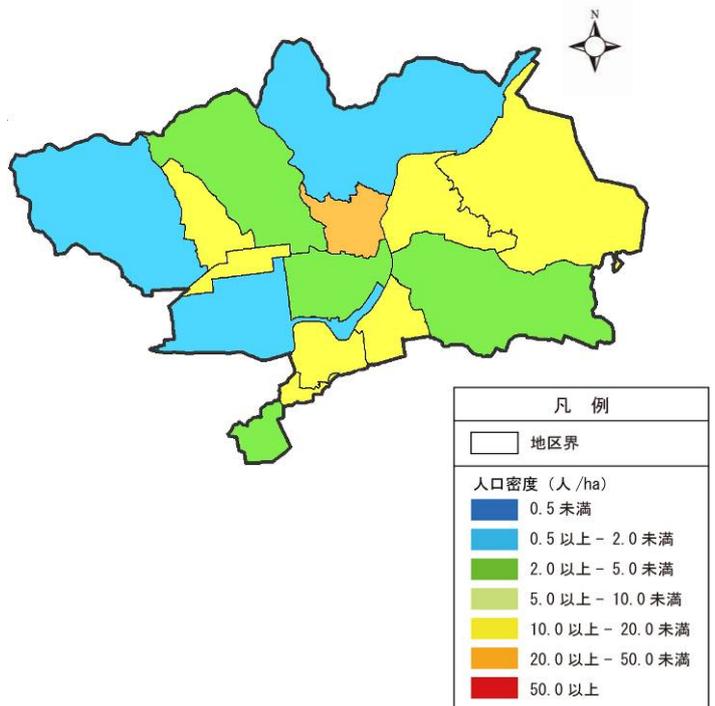
犬鳴川の流域には大規模な水田が広がっています。



■人口動向

人口は、平成17年現在約4,400人であり、市全体の約14%に相当します。

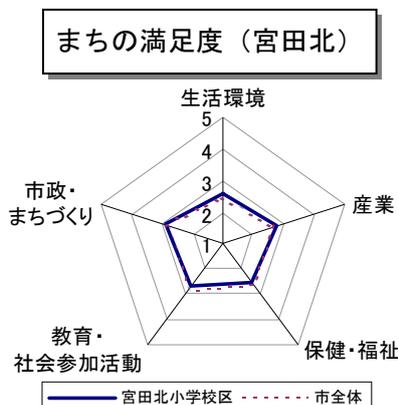
地域のなかでは、中央部に人口が集中しています。



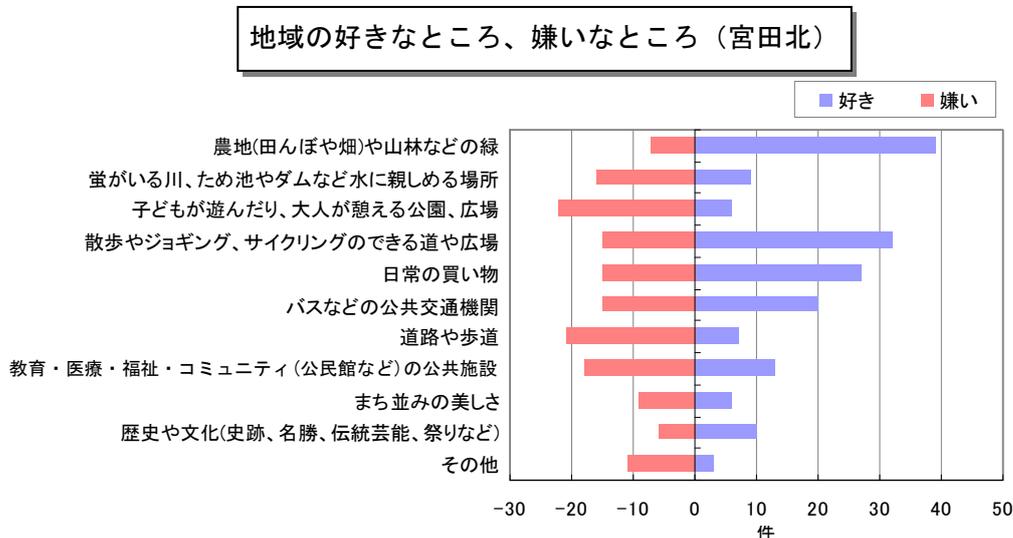
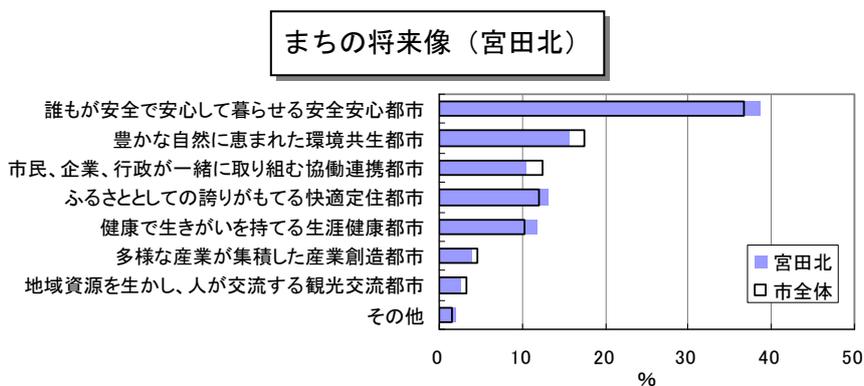
注) 人口密度の母数となる面積は、道路や水面などが居住できない土地を除いた面積としています。

■市民の意向

- ・ まちの満足度は、市全体とほぼ同じ傾向にあり、市政・まちづくり以外は満足度が低くなっています。
- ・ 地域の人々が求めるまちの将来像は、安全・安心な暮らしの意向が強くとともに、豊かな自然を望む声が多い傾向にあります。
- ・ 地域の好きなどところとして、農地や山林などの緑や散歩道、日常の買い物が多く挙げられています。公園や道路、公共施設などには改善が求められています。



注) グラフの数値は、回答項目の「非常に満足」に5、「おおむね満足」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満」に2、「非常に不満」に1とそれぞれに数値を与え、回答者との加重平均をしたものである。5に近いほど評価は高く、1に近いほど評価は低い。



(2) 地域の現況と課題

■土地利用

- ・ 北部及び東部は六ヶ岳をはじめとする豊かな自然に囲まれているとともに、南西部の犬鳴川の流域には大規模な田園地が広がっており、これらの自然環境を地域資源として保全していくことが望まれます。
- ・ 東部には低層系の住宅団地が立地しており、主要地方道 福岡直方線沿いには沿道型の商業施設が集積しているとともに、病院や高等学校が点在しています。
- ・ 南部には磯光工業団地が整備されていますが、分譲率が極めて低く、企業誘致が課題となっています。
- ・ 北部には砕石場跡地が未利用地として残存しています。

■交通体系

- ・ 主軸となる幹線道路として、主要地方道 福岡直方線、中間宮田線、一般県道 南良津宮田線、市道 上大隈西川線が配されています。
- ・ 都市計画道路として、羅漢龍徳線、龍徳鴨生田線が計画されています。
- ・ 幹線道路や生活道路の一部では、幅員が狭い区間があるとともに、歩道が狭い区間や未整備の区間が残されており、歩行者・自転車の安全性が懸念されています。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスが運行していますが、JR直方駅への便数増加など利便性の向上が求められています。

■公園・緑地

- ・ 本城の犬鳴川沿いには犬鳴川河川公園が整備されており、宮若市納涼花火大会が開催されるなど、市民の憩いの場として利用されているとともに、市民と行政の協働による維持管理が行われています。
- ・ 住宅市街地内には、生活に密着した公園が不足しています。

■その他の都市施設

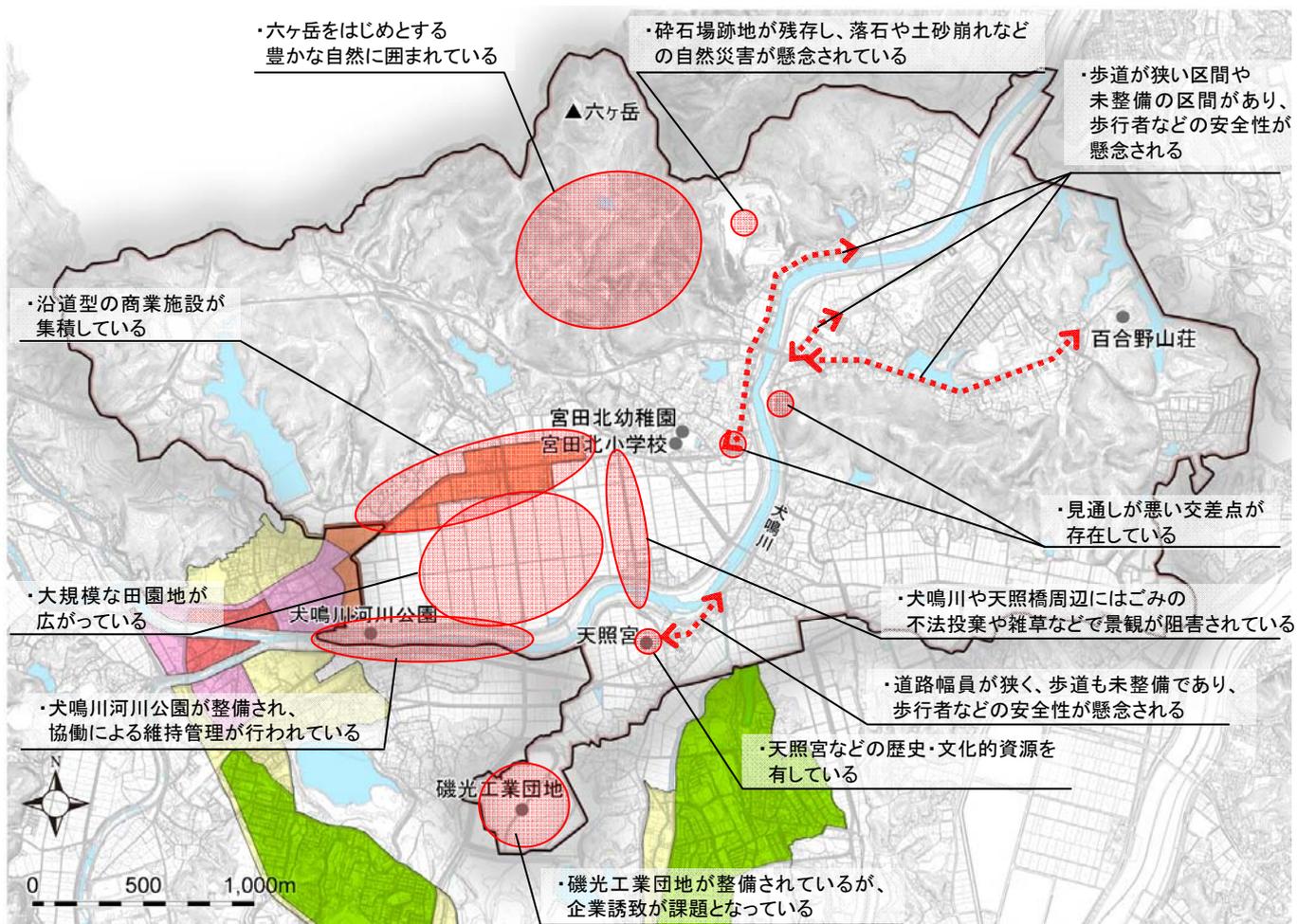
- ・ 上水道は全域において概ね整備されており、良質な水が各戸へ提供されています。現在のおいしい水が将来に渡り提供できるよう、水質を保全していくことが必要です。
- ・ 下水道は、遠賀川中流流域下水道事業により整備が進められていますが、供用されているのは龍徳地区と本城、鶴田地区の一部のみであり、未供用地区の早期整備が求められています。

■市街地整備

- ・ 住宅地では狭隘な生活道路が多く、防犯灯が少ないとともに、見通しの悪い交差点も存在することから、自動車の円滑な通行に支障をきたしているとともに、歩行者・自転車の安全性が懸念されています。
- ・ 高齢化が進んでいることから、UJI ターン[※]などによる新たな居住の促進が望まれています。

■都市景観・都市環境

- ・ 屋外広告物が無断で設置され、景観の阻害要因となっています。
- ・ 犬鳴川や天照宮周辺の橋梁及び道路には、ごみの不法投棄や雑草などで景観が阻害されています。
- ・ 碎石場跡地は、落石や土砂崩れなどの自然災害やごみの不法投棄などが懸念されています。
- ・ 歴史・文化的資源として、天照宮や百合野山荘などを有しており、これらを生かした地域交流や活性化が望まれています。また、案内板が設置されていますが、文字が小さく見えづらいなど、その改善が求められています。
- ・ 犬鳴川は地域の貴重な自然資源である一方、豪雨時などには氾濫することが懸念されています。
- ・ 地上デジタル放送難視聴地域が残存しており、その解消が課題となっています。



凡 例	
用途地域種別	
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	工業地域

▲地域の現況・課題図

(3) 地域の将来像

『六ヶ岳と先人に学ぶまち』

宮田北地域では、犬鳴川や六ヶ岳、本城の田園地など豊かな自然環境や天照宮などの歴史的資源を有しており、これらの自然や歴史を生かしながら地域を活性化させ、うるおいと活力に溢れた暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

本城地区における沿道型の商業集積については、背後の豊かな田園地との調和に配慮しながら地域の活力源として適正な機能維持を図るとともに、住宅市街地内における道路の狭隘区間の解消や交差点部の安全対策などにより、快適な住環境の形成を図ります。

犬鳴川河川公園における協働による維持管理の取り組みの継続や、清掃活動への積極的な参加呼びかけなどによりコミュニティの活性化に努めるとともに、潜在的な地域資源などを活用しながら地域外の人々との交流促進を図ります。

(4) 地域づくりの方針

■土地利用

- ・ 六ヶ岳をはじめとする豊かな自然環境や大規模な田園地は、地域の貴重な自然資源であることから、将来に渡り積極的に保全していきます。
- ・ 住宅市街地やまとまりのある集落地については、生活道路、公園、下水道など生活基盤施設の整備により快適な住環境を形成し、豊かで活力のある住宅市街地・集落地の形成に努めます。
- ・ 幹線道路沿いに立地する商業施設などは、地域の活力源であることから、周辺の田園地を保全しつつ、商業機能の維持に努めます。
- ・ 交通体系の整備による物流機能の強化などにより工業地としての魅力を高め、工業拠点である磯光工業団地の企業誘致を推進します。
- ・ 砕石場跡地については、本市の活性化に寄与するような計画的な土地利用方法について検討を進めます。

■交通体系

- ・ 主要な道路においては、関係機関と協議を進めながら、車道や歩道の拡幅、バリアフリー化などの機能強化を促進します。
- ・ 歩道の整備や横断歩道及び信号機の整備などを推進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 都市計画道路の羅漢龍徳線、龍徳鴨生田線については、市街地の骨格を形成する道路軸として整備を促進します。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスは、高齢者をはじめとした交通弱者の重要な交通手段であることから、市役所周辺を中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などとの連絡維持・強化に努めます。また、バス路線が存続するよう、より一層の利用促進を図ります。

■公園・緑地

- ・ 自然交流拠点である犬鳴川河川公園では、協働による維持管理体制の継続を促進します。
- ・ 市民の生活に密着し、子育てや地域のコミュニティ形成などの機能をもった身近な公園について、既存施設の活用方法を検討し、利用促進を図ります。

■その他の都市施設

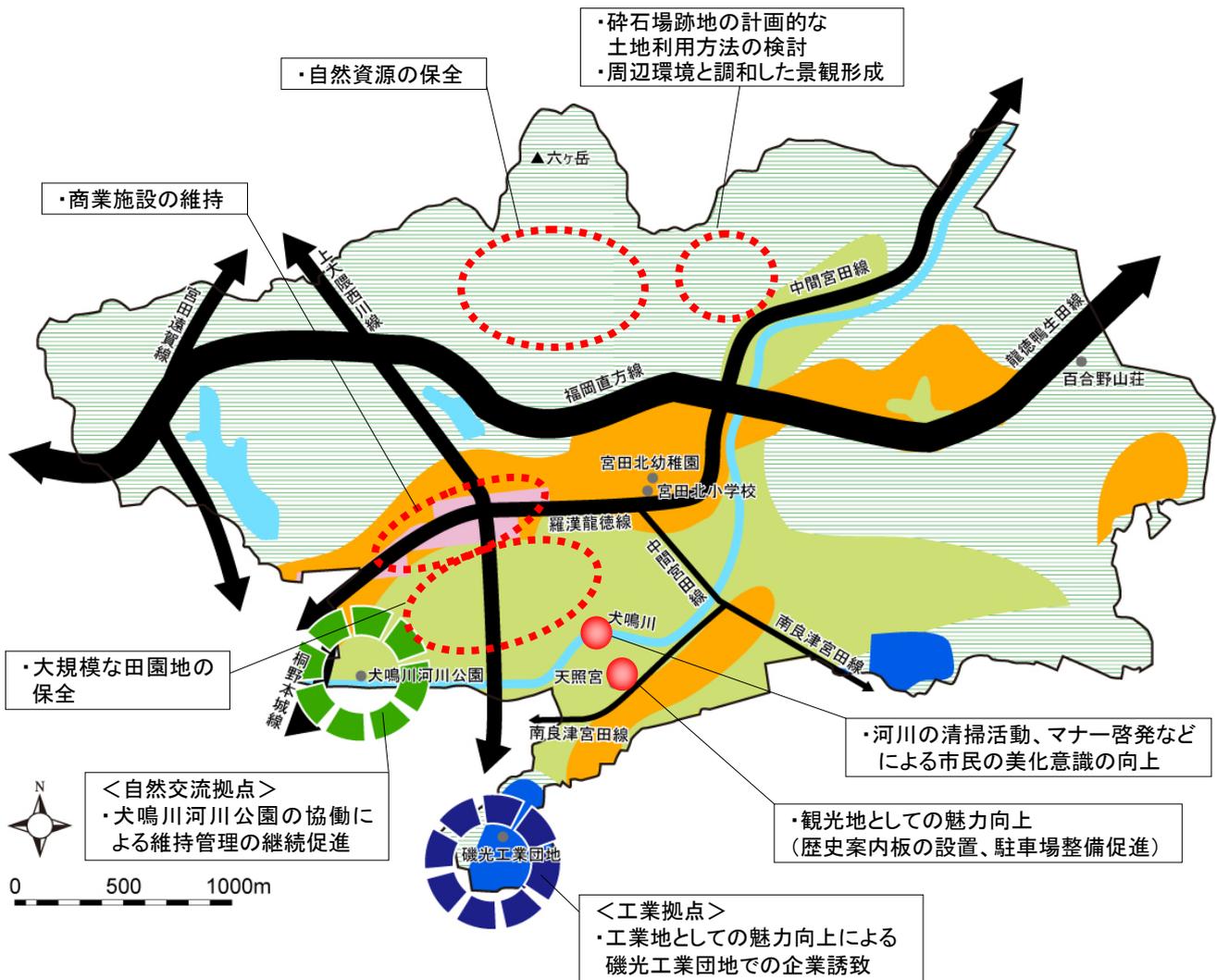
- ・ 上水道については、安全でおいしい飲料水を安定して提供するため、水源・水質の保全や水道施設の適切な維持・管理を行います。
- ・ 下水道については、未供用区域での早期整備を推進するとともに、下水道計画区域外においては合併処理浄化槽の設置を促進します。

■市街地整備

- ・ 市街地や住宅地及び集落地内においては、狭隘な生活道路の改良、側溝蓋の敷設を推進するとともに、防犯灯の設置を促進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 新たな宅地需要については、住宅市街地または集落地の周辺部への居住を推奨し、集落地の無秩序な拡大を抑制します。

■都市景観・都市環境

- ・ 屋外広告物条例による規制誘導などを推進し、良好なまちなみの景観形成に努めます。
- ・ 犬鳴川や天照宮は、市民や観光客など多くの人々が利用することから、草木などの適切な維持管理やごみの不法投棄に関する注意板の設置などを促進し、良好なまちなみ景観の形成に努めます。
- ・ 市民ボランティアによる清掃活動への参加呼びかけやマナー啓発などにより、市民の意識向上を図るとともに、適切な維持管理により河川や道路の美化に努めます。
- ・ 砕石場跡地は、植樹などによる防災対策を推進するとともに、緑地化などによる周辺環境と調和した景観形成を図ります。
- ・ 天照宮など地域が有する歴史・文化的資源は、市内及び市外へと広く情報発信するとともに、歴史などに関する案内板の設置・改良の推進や、駐車場整備、適切な維持管理を促進し、観光名所として活用や魅力の向上を図ります。また、歴史的資源などに設置された案内板のうち、見やすさなどに問題がある箇所については、文字の大きさやデザインなどについて改善策を検討します。
- ・ 豪雨時に冠水被害が発生している箇所については、関係機関と協議しながら災害対策を促進します。
- ・ 地上デジタル放送難視聴地域については、事業者によるアンテナ設置などを推進します。



＜地域全体＞

- ・生活基盤の充実による快適な住環境形成
- ・主要な道路の機能強化
- ・歩道、横断歩道、信号機の整備
- ・バス交通の市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などへの連絡維持・強化、利用促進
- ・身近な公園の活用方法検討、利用促進
- ・下水道の整備・合併処理浄化槽の設置促進
- ・生活道路における狭隘道路の改良、側溝蓋の敷設、交差点の安全対策、防犯灯の設置促進
- ・屋外広告物条例などによる良好なまちなみ形成
- ・冠水被害の発生箇所における災害対策の促進
- ・地上デジタル放送難視聴地域におけるアンテナ設置促進

凡例			
	低層系住宅市街地		集落地
	一般住宅市街地		田園地
	沿道型住商混在市街地		自然地
	商業業務地		水面
	工業地		幹線軸
	広域幹線軸		地域交流軸
	中心拠点		交流拠点
	地区拠点		自然交流拠点
	集落拠点		スポーツ・レジャー拠点
	工業拠点		

▲地域づくり方針図

宮田東地域

— 将来像 —

安全で安心な まちづくり

～災害に強い住環境と安全な交通環境づくり～

(1) 地域の概況

■位置・地勢

宮田東地域は市の東部に位置し、東を小竹町と接する地域です。

地形は北部を除いて丘陵地となっており、斜面地を中心として住宅市街地が形成されています。

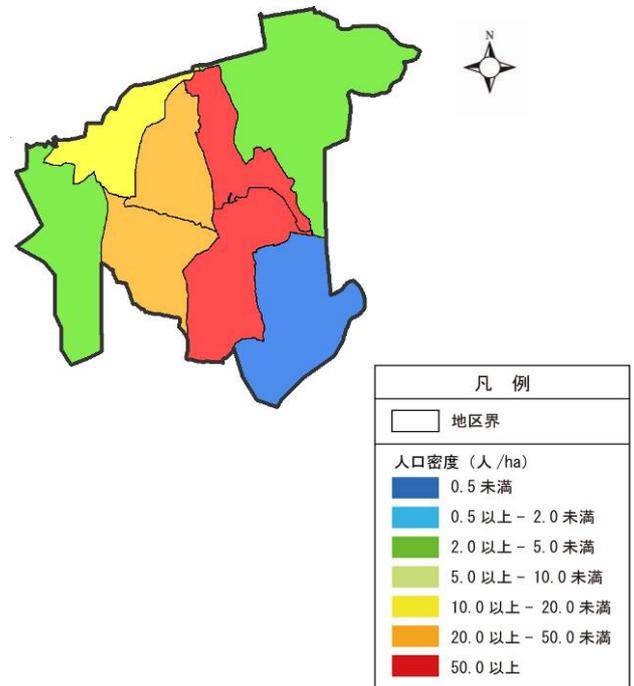
北部の平坦部では農地が広がっています。



■人口

人口は、平成17年現在約3,000人であり、市全体の10%に相当します。

地域のなかでは、中央部に人口が集中しています。

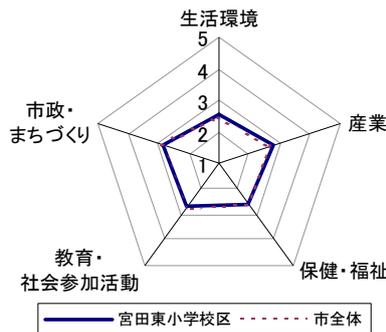


注) 人口密度の母数となる面積は、道路や水面などが居住できない土地を除いた面積としています。

■市民の意向

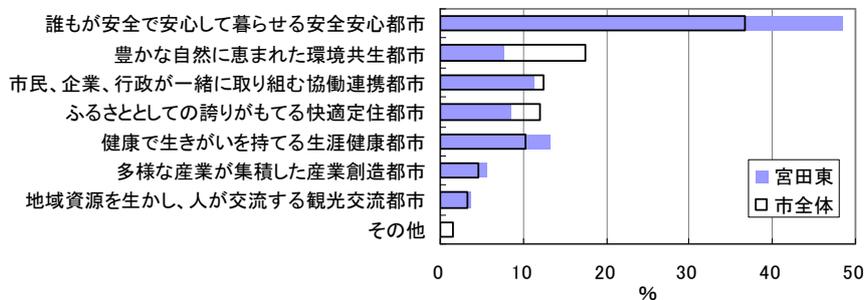
- ・ まちの満足度は、市全体とほぼ同じ傾向にあり、全ての項目で満足度が低くなっています。
- ・ 地域の人々が求めるまちの将来像は、安全・安心な暮らしを求める意向が突出して強く、健康で生きがいのあるまちづくりを望む声も多い傾向にあります。一方、豊かな自然環境については、市全体と比べて少ない傾向にあります。
- ・ 地域の好きなおところとして、農地や山林などの緑や日常の買い物、散歩道が多く挙げられていますが、公共交通や道路、公園などには改善が求められています。

まちの満足度（宮田東）

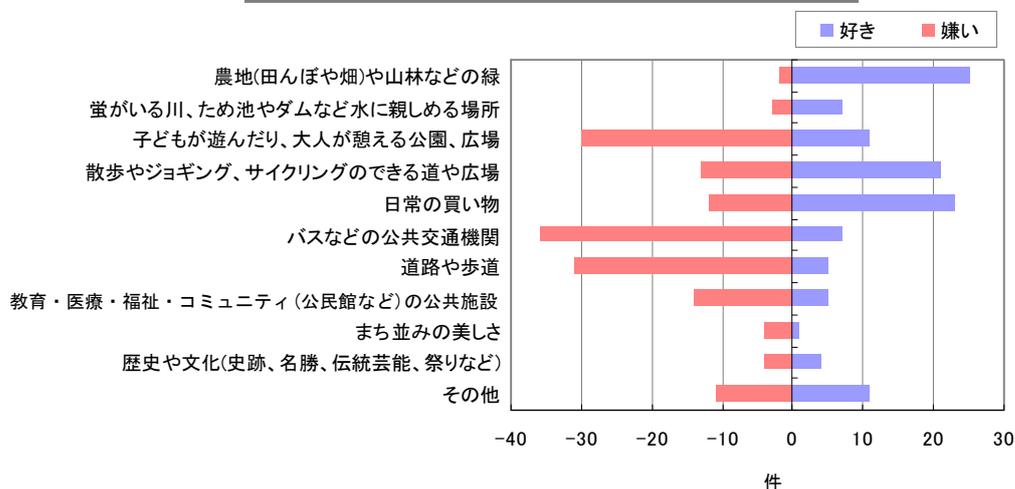


注) グラフの数値は、回答項目の「非常に満足」に5、「おおむね満足」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満」に2、「非常に不満」に1とそれぞれに数値を与え、回答者との加重平均をしたものである。5に近いほど評価は高く、1に近いほど評価は低い。

まちの将来像（宮田東）



地域の好きなおところ、嫌いなおところ（宮田東）



(2) 地域の現況と課題

■土地利用

- ・ 中央に密集住宅市街地や市営及び県営住宅などの住宅市街地が形成されており、北部にはまとまりのある田園が広がっています。
- ・ 南部には一部工場が立地していますが、大規模な遊休地が残存しており、土地の有効活用が求められています。
- ・ 住宅市街地には小規模な店舗や病院などが点在しており、日常の買い物に多く利用されているほか、地域のコミュニティ形成にも寄与しています。

■交通体系

- ・ 主軸となる幹線道路として、都市計画道路 菅牟田磯光線が配されています。
- ・ その他の主要な道路として、市道 宮田三坑線、磯光小竹線があり、市街地を連絡しています。
- ・ 通学路指定となっている道路や住宅市街地周辺の道路では、交通量が多く歩道が未整備の区間が一部あり、歩行者の安全性が懸念されています。
- ・ 市道 磯光小竹線では、大型トラックによる渋滞が発生しているとともに、幅員が狭いことから安全性が懸念されており、渋滞対策や安全性の向上が求められています。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスが運行していますが、JR直方駅への便数増加やJR小竹駅への新規路線設置など利便性の向上が求められています。

■公園・緑地

- ・ 市営及び県営住宅周辺には公園が併設されていますが、それ以外の住宅市街地では、生活に密着した身近な公園が不足しています。

■その他の都市施設

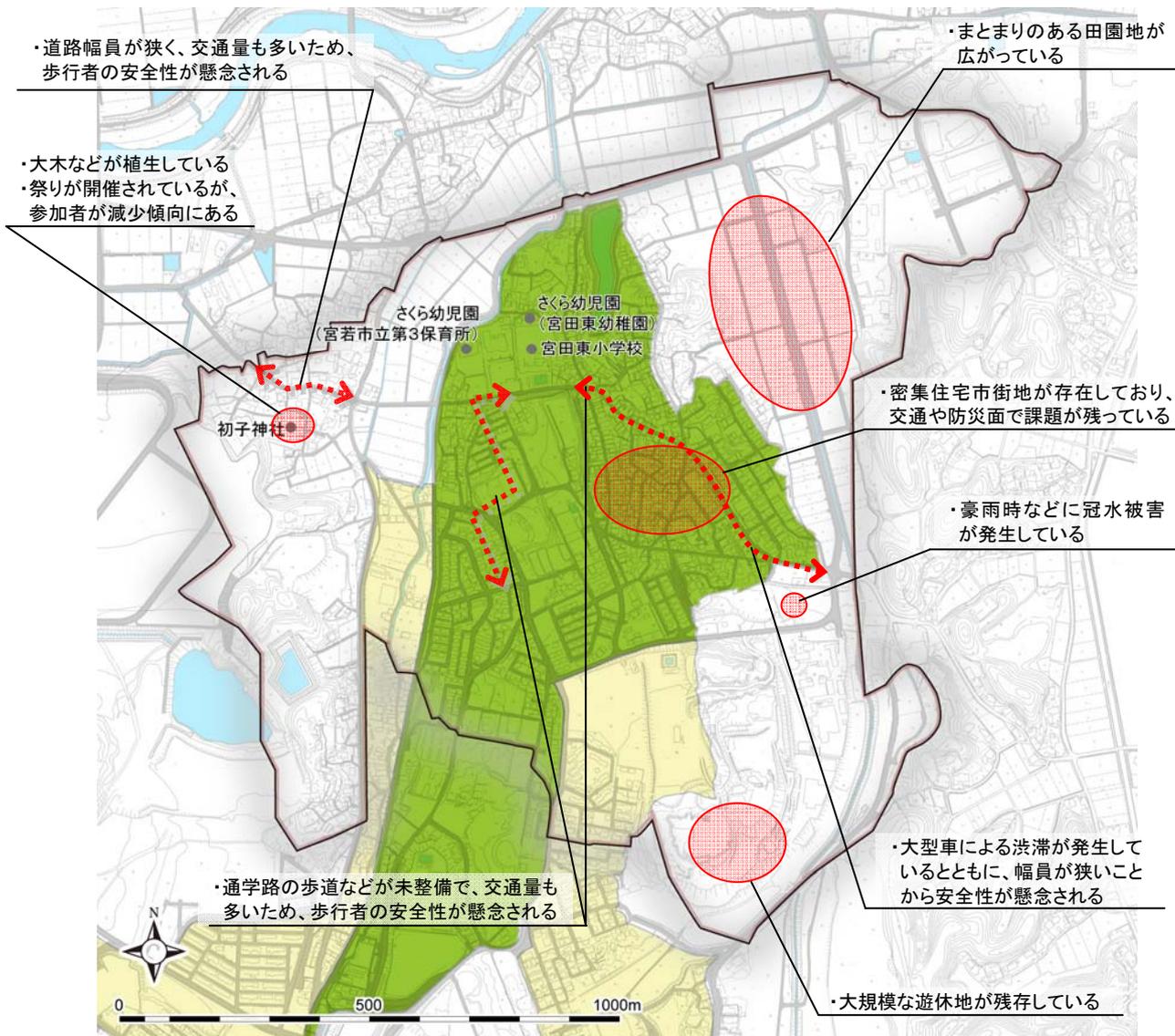
- ・ 上水道は全域において概ね整備されており、良質な水が各戸へ提供されています。現在のおいしい水が将来にわたり提供できるよう、水質を保全していくことが必要です。
- ・ 下水道は、遠賀川中流域下水道事業により整備が進められており、未供用地区の早期整備が求められています。

■市街地整備

- ・ 市街地内では地形条件から家屋が密集した市街地が存在するとともに、狭隘な生活道路も多いことから、交通面や防災面での安全性が懸念されています。
- ・ 初子神社周辺の住宅市街地では、狭隘な生活道路が多いとともに防犯灯も少なく、自動車・歩行者・自転車の安全性が懸念されています。

■都市景観・都市環境

- ・ 南部や西部には、都市計画区域以外の法適用がなされていない白地地域が存在しており、無秩序な開発や周辺環境と調和しない開発などがなされる恐れがあります。
- ・ 磯光に位置する初子神社では、大木などが植生しており、特有の景観資源として保全することが望まれます。また、地域のコミュニティ形成に寄与するお祭りが開催されていますが、参加者が減少傾向にあります。
- ・ 住宅市街地の一部では、豪雨時などに冠水被害が発生しています。



凡 例	
用途地域種別	
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	工業地域

▲地域の現況・課題図

(3) 地域の将来像

『安全で安心な まちづくり』

宮田東地域では、石炭採掘期に形成された密集市街地をはじめとした住宅市街地が形成されており、生活基盤の整備や用途地域の運用により、災害に強く快適な住環境づくりを進めていきます。

工業地の形成により大型車の通行が増加しており、安全な道路空間の整備を進めていきます。

地域内では、身近な場所に小規模な店舗などの生活利便施設が立地しており、歩いて暮らせる環境の維持による定住促進を図りながら、コミュニティの醸成を促進し、安心して暮らせる環境づくりに努めます。

(4) 地域づくりの方針

■土地利用

- ・ 磯光や鶴田などの低層住宅市街地では、日用品販売店や病院などの定着を図るとともに、市街地環境を保全しつつ、下水道や公園などの生活基盤施設の充実により魅力を高め、豊かで活力のある住宅市街地の形成に努めます。
- ・ 新たな宅地開発の際には、市街地周辺部への宅地拡大を抑制するなど、北部に広がる田園地との調和を図ります。
- ・ 遊休地については、本市の活性化に寄与するような計画的な土地利用方法について検討を進めます。

■交通体系

- ・ 主要な道路においては、関係機関と協議を進めながら、車道や歩道の拡幅、バリアフリー化などの機能強化を促進し、渋滞解消に努めます。
- ・ 歩道の整備や横断歩道、信号機の整備などを推進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスは、高齢者をはじめとした交通弱者の重要な交通手段であることから、市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などとの連絡維持・強化に努めます。また、バス路線が存続するよう、より一層の利用促進を図ります。

■公園・緑地

- ・ 市民の生活に密着し、子育てや地域のコミュニティ形成などの機能をもった身近な公園について、既存施設の活用方法を検討し、利用促進を図ります。

■その他の都市施設

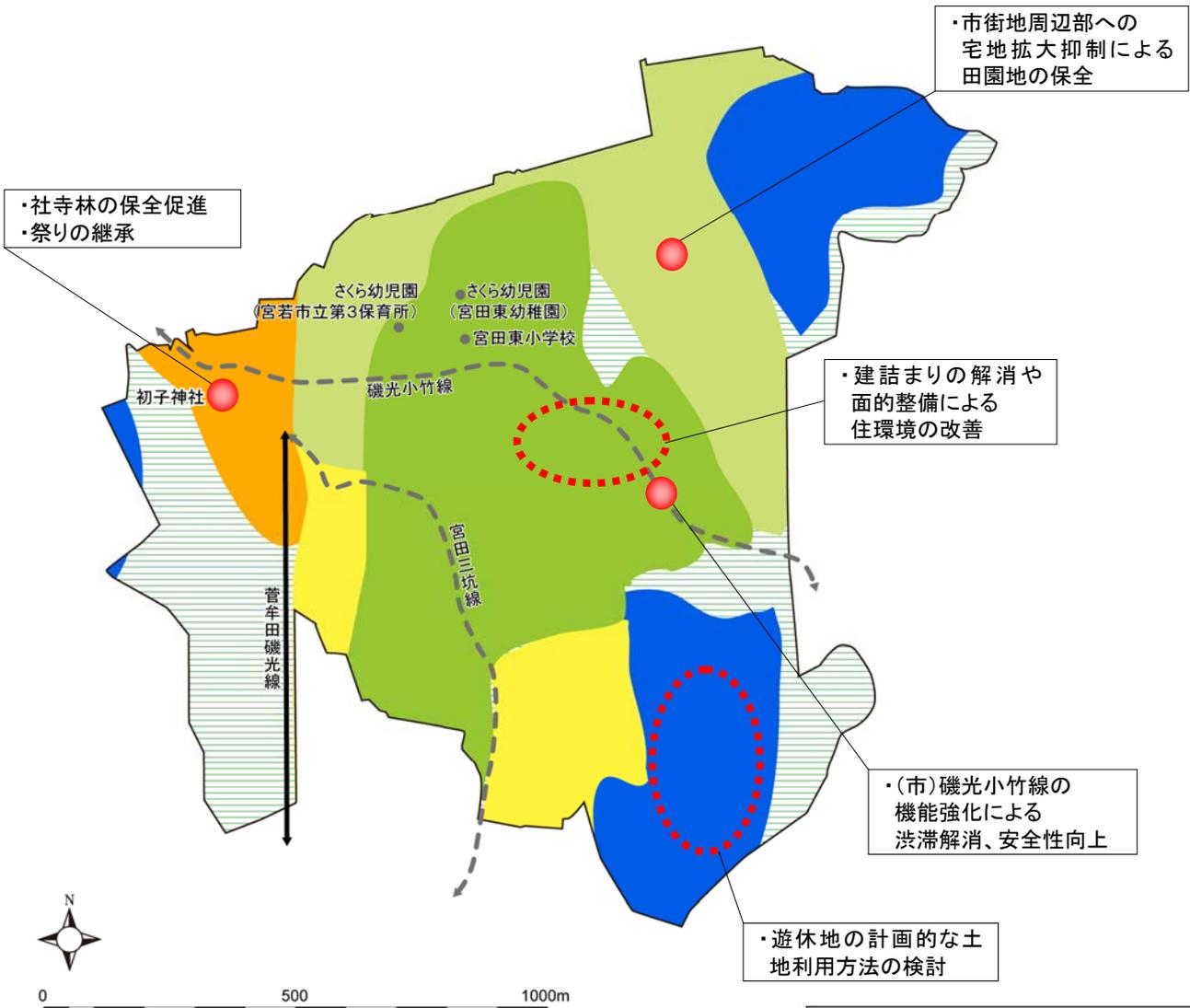
- ・ 上水道については、安全でおいしい飲料水を安定して提供するため、水源・水質の保全や水道施設の適切な維持・管理を行います。
- ・ 下水道については、公共下水道の早期整備を推進するとともに、下水道計画区域外においては合併処理浄化槽の設置を促進します。

■市街地整備

- ・ 市街地や住宅地及び集落地内においては、狭隘な生活道路の改良、側溝蓋の敷設の推進や防犯灯の設置を促進するとともに、主要な道路の機能強化などにより通過交通^{*}と地域内交通の分離を図り、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 密集住宅市街地については、建築基準法による建詰まりの解消を誘導しつつ、生活道路や下水道、公園などの生活基盤施設の面的な整備により、住環境の改善に努めます。

■都市景観・都市環境

- ・ 無秩序な開発や市街地の拡散の抑制、屋外広告物条例による幹線道路での規制誘導などを推進するとともに、市民の意識向上に応じて、地区計画や建築協定の適用を促進し、良好なまちなみ景観の形成を図ります。
- ・ 市街地や集落内の景観は、可能な限り保全するとともに、初子神社の大木や名木などは保存樹木の指定を行うなど、積極的な保全を図ります。また、祭りの継承を促進し、多世代が暮らしやすい環境づくりに努めます。
- ・ 豪雨時に冠水被害が発生している箇所については、関係機関と協議しながら災害対策を促進します。



<地域全体>

- ・生活基盤の充実による快適な住環境形成
- ・主要な道路の機能強化促進
- ・歩道、横断歩道、信号機の整備
- ・バス交通の市役所周辺を中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などへの連絡維持・強化、利用促進
- ・身近な公園の活用方法検討、利用促進
- ・下水道の整備・合併処理浄化槽の設置促進
- ・屋外広告物条例の推進や地区計画・建築協定の適用による良好なまちなみ景観形成の促進
- ・冠水被害の発生箇所における災害対策の促進

凡 例	
低層系住宅市街地	集落地
一般住宅市街地	田園地
沿道型住商混在市街地	自然地
商業業務地	水面
工業地	
広域幹線軸	幹線軸
地域幹線軸	地域交流軸
中心拠点	交流拠点
地区拠点	自然交流拠点
集落地拠点	スポーツ・レジャー拠点
工業拠点	

▲地域づくり方針図

宮田地域

— 将来像 —

若さキラメキ 宮小地域！

～若い世代にも魅力ある緑にあふれた暮らしやすい地域づくり～

(1) 地域の概況

■位置・地勢

宮田地域は市の東南部に位置し、南を小竹町と接する地域です。

中央の平坦部には住宅市街地が形成されています。

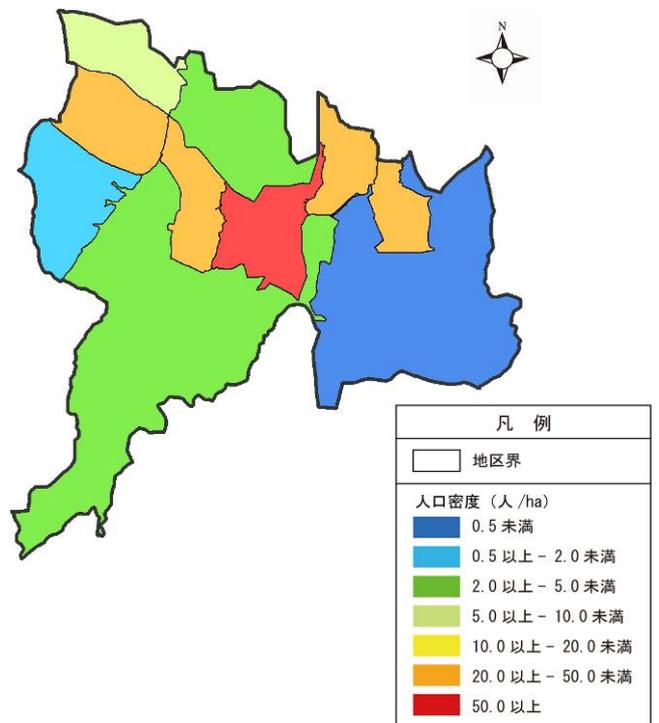
南部は小高い山々に囲まれており、豊かな自然地が広がっています。



■人口

人口は、平成17年現在約3,900人であり、市全体の13%に相当します。

地域のなかでは、中央部に人口が集中しています。

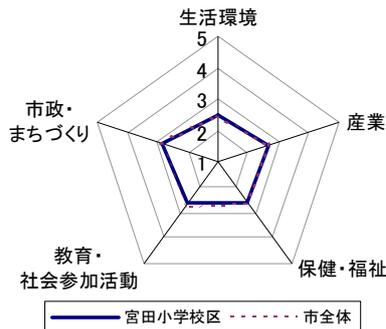


注) 人口密度の母数となる面積は、道路や水面などが居住できない土地を除いた面積としています。

■市民の意向

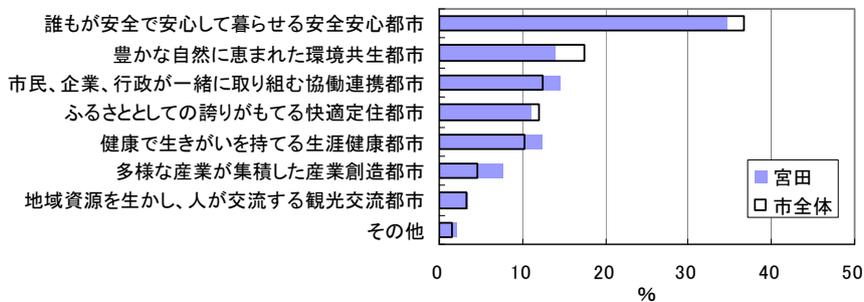
- ・ まちの満足度は、市全体とほぼ同じ傾向にあり、全ての項目で満足度が低くなっています。
- ・ 地域の人々が求めるまちの将来像は、安全・安心な暮らしの意向が強くとともに、協働によるまちづくりや豊かな自然環境を望める声が多い傾向にあります。また、健康で生きがいのあるまちづくりや産業集積を望む声も市全体と比べて多い傾向にあります。
- ・ 地域の好きなおところとして、農地や山林などの緑や公園、親水空間が多く挙げられています。公共交通や道路、日常の買い物などには改善が求められています。公園については、好きなおところとして多く挙げられている一方、嫌いなおところとしても挙げられており、意見がわかれています。

まちの満足度（宮田）

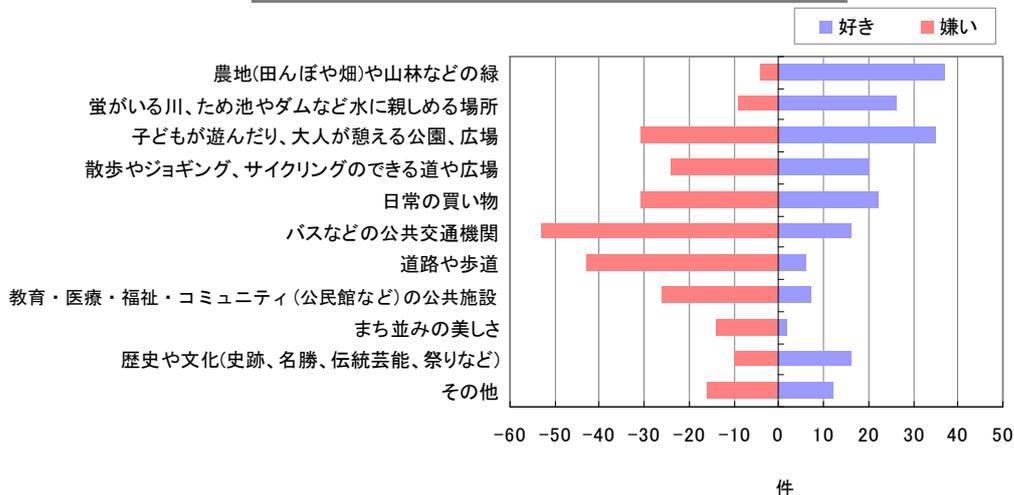


注) グラフの数値は、回答項目の「非常に満足」に5、「おおむね満足」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満」に2、「非常に不満」に1とそれぞれに数値を与え、回答者との加重平均をしたものである。5に近いほど評価は高く、1に近いほど評価は低い。

まちの将来像（宮田）



地域の好きなおところ、嫌いなおところ（宮田）



(2) 地域の現況と課題

■土地利用

- ・ 中央に住宅市街地が形成されていますが、住宅市街地内及びその周辺には商店が少なく、また密集市街地も見られ、日常生活の利便性や住環境の向上が求められています。
- ・ 西端部には桐野工業団地が整備されていますが、企業の定着化が課題となっています。
- ・ 南部の山林地やその麓には、豊かな自然と田園地が広がっており、恵まれた自然環境として保全していく必要があります。

■交通体系

- ・ 主軸となる幹線道路として、主要地方道 宮田小竹線、市道 大之浦代之浦線が配されています。
- ・ 都市計画道路として、勝野長井鶴線、菅牟田磯光線が整備・計画されています。
- ・ 通学路指定となっている幹線道路の一部では、歩道が未整備の区間が残されており、交通弱者の安全性が懸念されています。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスが運行していますが、JR直方駅への便数増加やJR小竹駅への新規路線設置、廃止された赤間方面へのバス路線の復活など利便性向上が求められています。

■公園・緑地

- ・ 上大隈には貸し農園を有している2000年公園が整備されており、多くの市民の憩いの場、市民活動の場として機能しています。
- ・ 磯光には、公認規格を有する野球場などのレクリエーション機能をもった毛勝総合公園の整備が進められています。
- ・ 大規模な公園は整備されつつありますが、生活に密着した身近な公園が不足しています。

■その他の都市施設

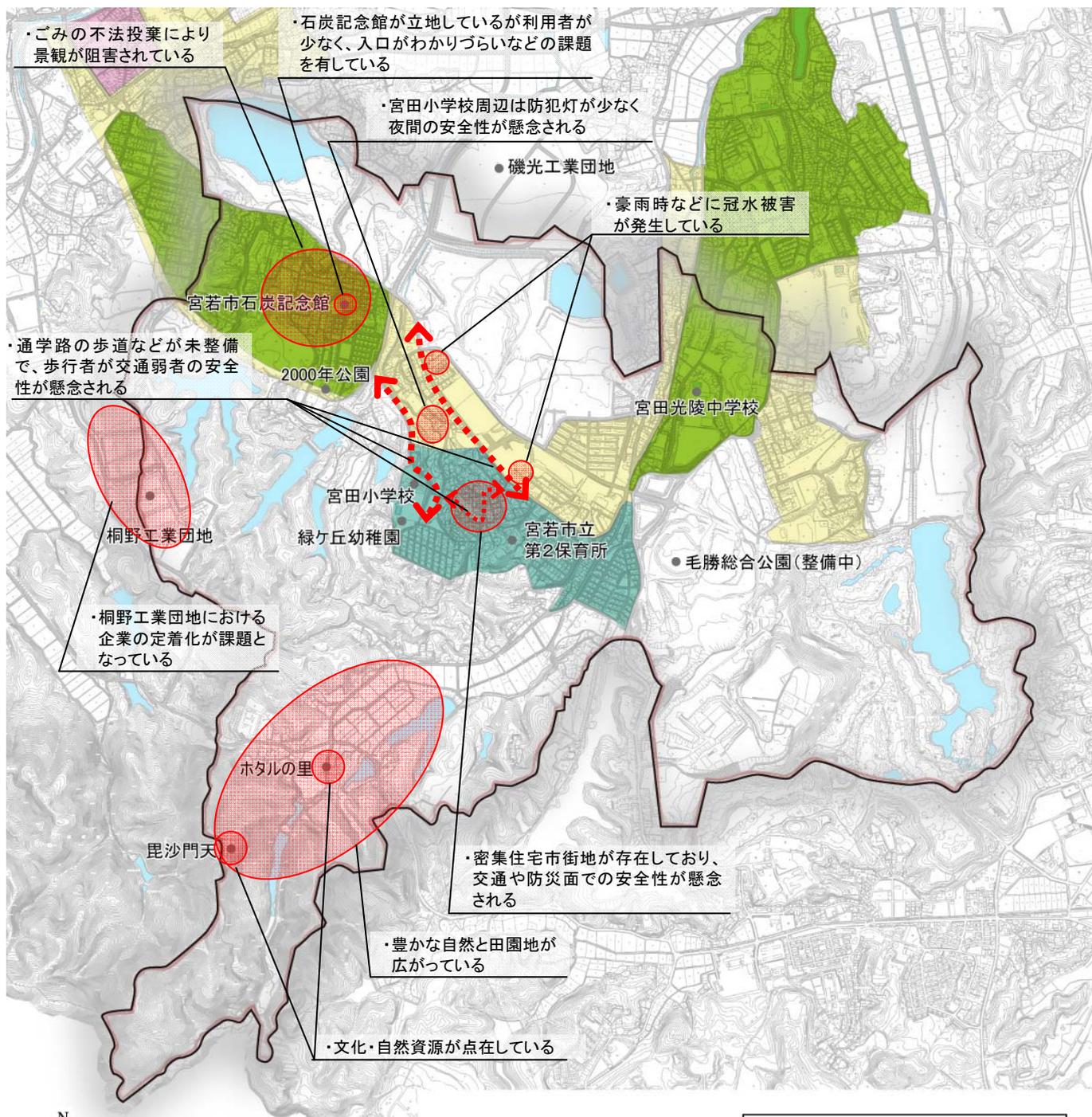
- ・ 上水道は全域において概ね整備されており、良質な水が各戸へ提供されています。現在のおいしい水が将来に渡り提供できるよう、水質を保全していくことが必要です。
- ・ 下水道は、遠賀川中流域下水道事業により整備が進められていますが、企業や工場従業者の市内への居住促進のためにも、未供用地区の早期整備が求められています。

■市街地整備

- ・ 一部の住宅市街地においては、住宅が密集し、狭隘で屈曲の多い生活道路が基盤となっていることから、防災面や生活環境面での安全性が懸念されています。また、駐車場がない住宅も多く、路上駐車が散見されることから、駐車場を併設した住宅など現在の住宅需要に見合った計画的な市街地整備が必要です。
- ・ 住宅市街地では計画的な宅地開発がなされており、人口増加や若い世代の増加など地域活性化に寄与していますが、企業や工場などに関連する従業者の多くは近隣都市に居住していることから、市内への居住促進や定住化が課題となっています。
- ・ 宮田小学校周辺では防犯灯が少なく、交通や防犯面において夜間の安全性が懸念されています。

■都市景観・都市環境

- ・ 北部や東部では、都市計画区域以外の法適用がなされていない白地地域が存在しており、無秩序な開発や周辺環境と調和しない開発などがなされる恐れがあります。
- ・ 石炭記念館周辺にはごみの不法投棄が多く、景観が阻害されています。
- ・ 南部の自然地には、毘沙門天やホタルの里をはじめとした文化・自然資源が点在しており、交流・観光資源として活用することが望まれています。
- ・ 上大隈には石炭記念館がありますが、幹線道路からの入口がわかりづらいなどの課題を有しています。
- ・ 磯光や上大隈の市街地の一部では、豪雨時などに冠水被害が発生しており、通行不能となる道路が見受けられます。



凡 例	
用途地域種別	
	第二種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	工業地域

▲地域の現況・課題図

(3) 地域の将来像

『若さキラメキ 宮小地域!』

宮田地域では、幹線道路や総合公園の整備などを図りつつ、緑にあふれ暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

低層系の住宅市街地においては現在の住環境の保全を図りながら、若い世代の定住化を促進していきます。

総合公園や都市計画道路 勝野長井鶴線の整備や、地域資源である石炭記念館や毘沙門天を活用することにより、地域の魅力向上を図ります。

(4) 地域づくりの方針

■土地利用

- ・ 低層系の住宅市街地ならびに密集市街地では、生活道路、身近な公園、下水道など生活基盤施設の充実により快適な住環境の形成を図り、豊かで活力のある住宅地・集落地の形成に努めます。
- ・ 工業拠点である桐野工業団地は、工業地としての魅力を高め、企業の定着化に努めます。
- ・ 南部に広がる豊かな自然や田園地は、地域の自然資源であることから、将来に渡り積極的に保全していきます。

■交通体系

- ・ 広域的な道路ネットワークを担う勝野長井鶴線は、市街地の骨格を形成する道路でもあり、関係機関と協議を進めながら、整備を促進します。
- ・ 歩道の整備や横断歩道及び信号機の整備などを推進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスは、高齢者をはじめとした交通弱者の重要な交通手段であることから、市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などとの連絡維持・強化に努めます。また、バス路線が存続するよう、より一層の利用促進を図ります。

■公園・緑地

- ・ スポーツ・レジャー拠点である 2000 年公園について、適切な維持管理を推進するとともに、利用促進に努めます。
- ・ 平成 21 年に都市計画決定された毛勝総合公園については、スポーツ・レジャー拠点として、引き続き早期供用をめざして整備を推進し、スポーツ人口の増加、市外からの交流人口の増加を促進します。
- ・ 市民の生活に密着し、子育てや地域のコミュニティ形成などの機能をもった身近な公園について、既存施設の活用方法を検討し、利用促進を図ります。また、街路樹や良好な緑地を保全・整備し、緑あふれるまちなみ形成に努めます。

■その他の都市施設

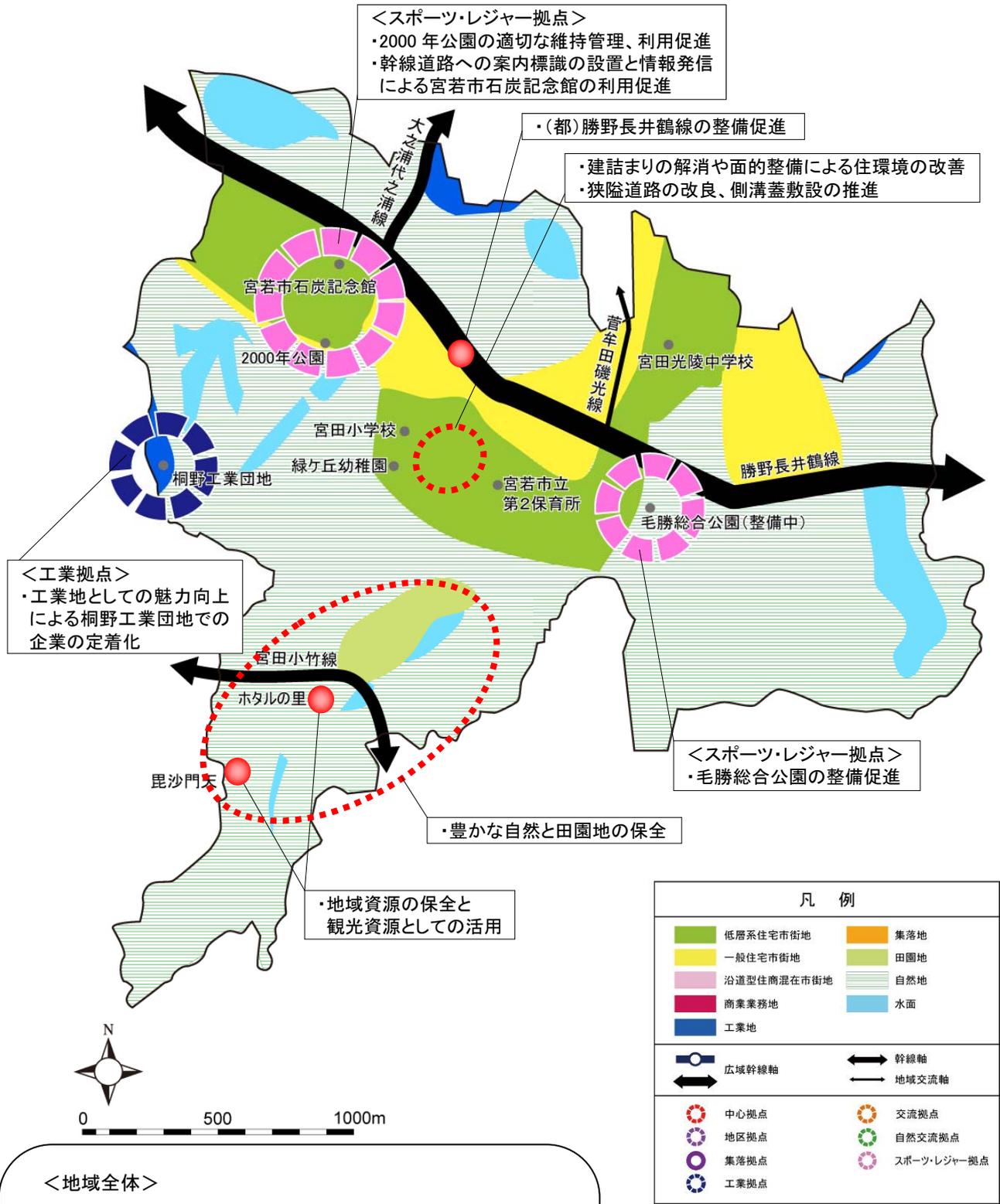
- ・ 上水道については、安全でおいしい飲料水を安定して提供するため、水源・水質の保全や水道施設の適切な維持・管理を行います。
- ・ 下水道については、公共下水道の早期整備を推進するとともに、下水道計画区域外においては合併処理浄化槽の設置を促進します。

■市街地整備

- ・ 住宅需要と合致しない旧来の市街地については、個別建替えによる機能改善や面的な基盤整備など計画的な市街地整備を推進するための手法について検討します。
- ・ 住宅市街地では、生活環境の改善や必要な生活基盤施設の整備を推進し、新たな居住や定住化を促進します。
- ・ 市街地や住宅地及び集落地内においては、狭隘な生活道路の改良、側溝蓋の敷設を推進するとともに、防犯灯の設置を促進し、歩行者の安全確保に努めます。

■都市景観・都市環境

- ・ 無秩序な開発や市街地の拡散の抑制、屋外広告物条例による幹線道路での規制誘導などを推進し、良好なまちなみ景観の形成に努めます。
- ・ 既存の荒地や生活道路などについては、計画的な対処・整備により、美観に優れたまちなみ形成を推進します。
- ・ 市民ボランティアによる清掃活動への参加呼びかけやマナー啓発などにより、市民の意識向上を図るとともに、適切な維持管理により河川や道路の美化に努めます。
- ・ 毘沙門天やホテルの里、石炭記念館などの地域資源については、保全を図るとともに、歴史などを案内する案内板や案内標識の設置、駐車場の整備などを推進し、観光資源としての活用を図ります。
- ・ 豪雨時に冠水被害が発生している箇所については、関係機関と協議しながら災害対策を促進します。



＜スポーツ・レジャー拠点＞
 ・2000年公園の適切な維持管理、利用促進
 ・幹線道路への案内標識の設置と情報発信による宮若市石炭記念館の利用促進

・(都)勝野長井鶴線の整備促進

・建詰まりの解消や面的整備による住環境の改善
 ・狹隘道路の改良、側溝蓋敷設の推進

＜工業拠点＞
 ・工業地としての魅力向上による桐野工業団地での企業の定着化

＜スポーツ・レジャー拠点＞
 ・毛勝総合公園の整備促進

・豊かな自然と田園地の保全

・地域資源の保全と観光資源としての活用

＜地域全体＞

- ・生活基盤の充実による快適な住環境形成
- ・歩道、横断歩道、信号機の整備
- ・バス交通の市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などへの連絡維持・強化、利用促進
- ・身近な公園の活用方法検討、利用促進
- ・下水道の整備・合併処理浄化槽の設置促進
- ・屋外広告物条例などによる良好なまちなみ形成
- ・道路の清掃活動、マナー啓発などによる市民の美化意識の向上
- ・冠水被害の発生箇所における災害対策の促進

▲地域づくり方針図

笠松地域

— 将来像 —

定住できる豊かな住環境と 利便性の高い工業地の共存・共栄

～豊かな自然と集落、工業地が共存した活力ある地域づくり～

(1) 地域の概況

■位置・地勢

笠松地域は市の北部に位置し、北東を宗像市と、東を鞍手町と接する地域です。

北部や西部は小高い山々に囲まれており、また地域を有木川及び倉久川が縦断しています。

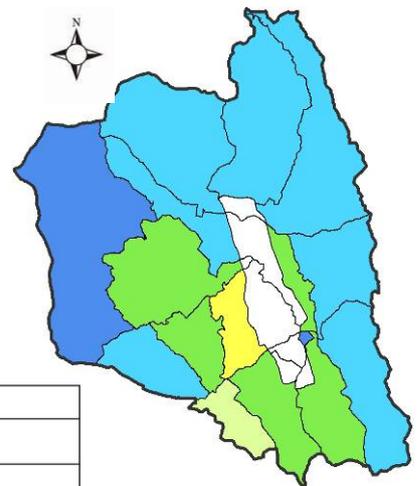
地域の中央部にはトヨタ自動車九州をはじめとする工業地が形成されている一方、河川沿いには水田が広がっています。



■人口

人口は、平成17年現在約2,900人であり、市全体の10%に相当します。

地域のなかでは、中央から南部にかけて人口が集中しています。

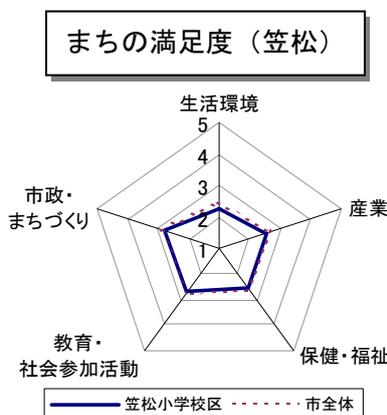


凡例	
	地区界
人口密度 (人/ha)	
	0.5 未満
	0.5 以上 - 2.0 未満
	2.0 以上 - 5.0 未満
	5.0 以上 - 10.0 未満
	10.0 以上 - 20.0 未満
	20.0 以上 - 50.0 未満
	50.0 以上

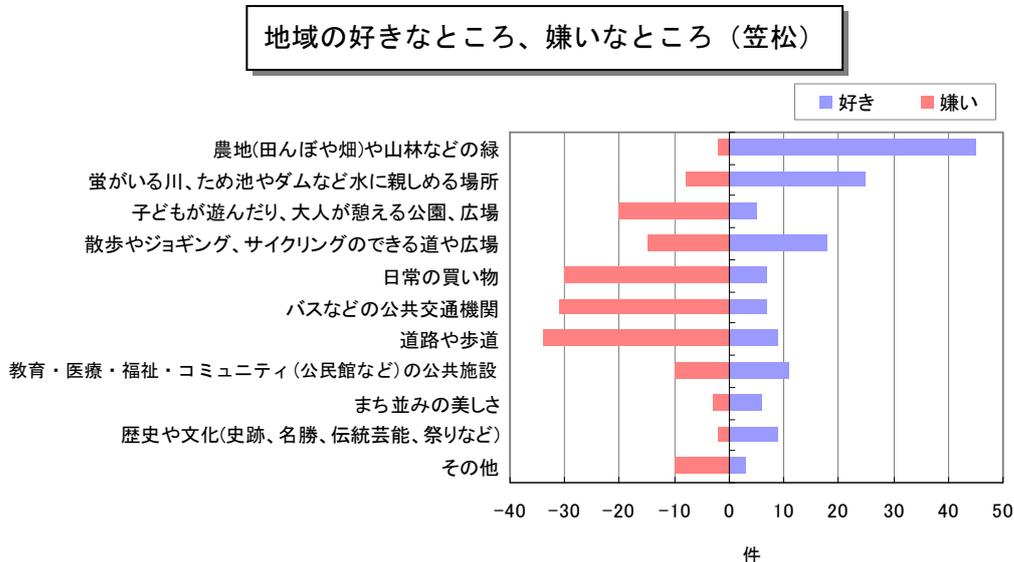
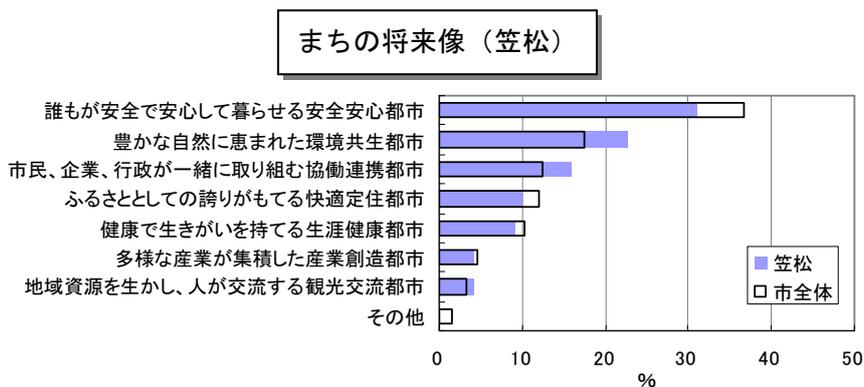
注) 人口密度の母数となる面積は、道路や水面などが居住できない土地を除いた面積としています。

■市民の意向

- ・ まちの満足度は、市全体とほぼ同じ傾向にあり、全ての項目で満足度が低くなっています。
- ・ 地域の人々が求めるまちの将来像は、安全・安心な暮らしの意向が強くとともに、市全体と比べて豊かな自然や協働によるまちづくりを望む声が高い傾向にあります。
- ・ 地域の好きなどころとして、農地や山林などの緑が非常に高いほか、親水空間が多く挙げられています。道路や公共交通、日常の買い物など利便性に関する改善が求められています。



注) グラフの数値は、回答項目の「非常に満足」に5、「おおむね満足」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満」に2、「非常に不満」に1とそれぞれに数値を与え、回答者との加重平均をしたものである。5に近いほど評価は高く、1に近いほど評価は低い。



(2) 地域の現況と課題

■土地利用

- ・ 中央部にトヨタ自動車九州を中心とする大規模な工業地が広がっている一方、森林やまとまりのある田園地、河川、ため池などが混在しています。
- ・ トヨタ自動車九州を中心とする宮田団地及び主要地方道 室木下有木若宮線沿線の工業団地は、市の重要な産業基盤となっています。
- ・ 農地を囲むように集落地が散在していますが、商店が少なく、日常の買い物における利便性の向上が求められています。
- ・ 貴重な地域資源である豊かな農地の保全が大きな課題となっていますが、農家の減少や工業地との共生を背景に、今後は農地の有効活用について検討する必要があります。
- ・ 南部には遊休地が残存しています。

■交通体系

- ・ 中央を九州自動車道が横断しているとともに、主軸となる幹線道路として、主要地方道 室木下有木若宮線、岡垣宮田線、一般県道 芹田石丸線、市道 釜底都地線、泉水越線が配されています。
- ・ 幹線道路網は工場地への物流交通を担う機能を持っており、物流機能の確保・強化など、工場地の利便性を向上させる道路整備も必要となっています。また、主要な通勤ルートとなっており、特定の時間帯において大きな交通量となるため、歩行者・自転車・自動車ともに安全性が懸念されています。
- ・ 工業地周辺の道路では、大型車の右左折が困難な交差点の存在や滞留スペース不足などの課題を有しています。
- ・ 中央部に位置する工場地により地域が分断されており、通学をはじめとする地域内のアクセスが困難な状況にあります。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスが運行していますが、利用者の減少や採算性の悪化が進行しており、バス路線の存続危機にさらされています。

■公園・緑地

- ・ 工業地においては、桜並木や植樹が整備されていますが、駐車場や停車スペースがなく、自動車を停めて景観を楽しむ空間づくりが望まれています。
- ・ 生活に密着した身近な公園が少なく、子育てや憩いの場として、その整備が求められています。

■その他の都市施設

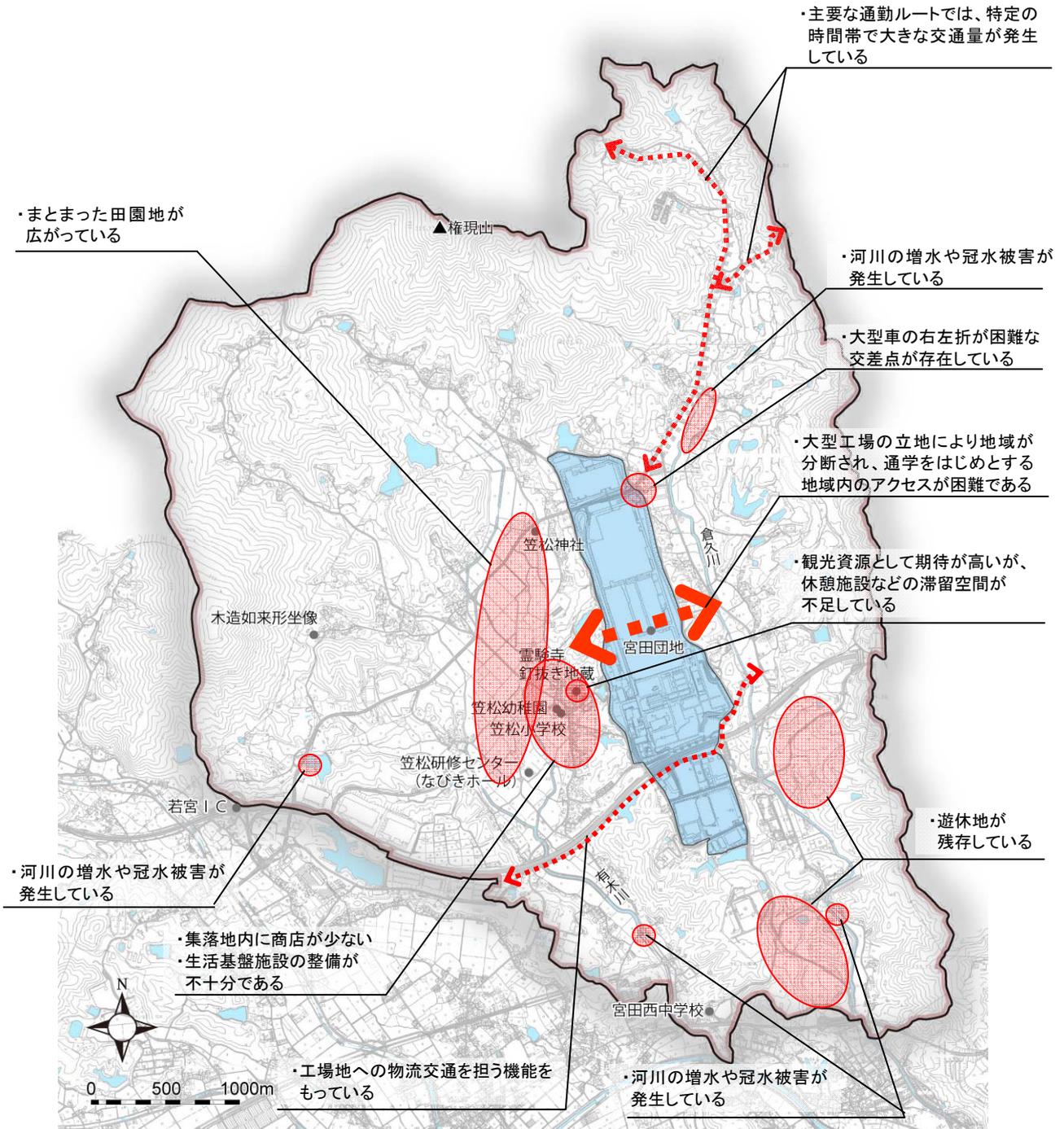
- ・ 一部において上水道が整備されており、良質な水が各戸へ提供されています。現在のおいしい水が将来にわたり提供できるよう、水質を保全していくことが必要です。
- ・ 下水道は、遠賀川中流域下水道事業により整備が進められていますが、未供用地区の早期整備が求められています。
- ・ 誘致企業の多くは公害防止協定^{*}を締結しているとともに、工業排水は浄化槽及び礫間処理施設において一括した処理が行われています。

■市街地整備

- ・ 下有木には、大小の研修室を備えた笠松研修センター（なびきホール）が整備されており、企業研修や各種行事などに利用されています。
- ・ 集落地においては、生活道路や公園、防犯灯などの生活基盤施設の整備が不十分な状況にあります。

■都市景観・都市環境

- ・ 都市計画区域以外の法適用がなされていない白地地域が散在しており、無秩序な開発や周辺環境と調和しない開発などがなされる恐れがあります。
- ・ 市民、企業、行政が協働で取り組む笠松地域環境対策会議^{*}が設立されており、清掃活動や植樹などの緑化が行われています。
- ・ 豪雨時などに、河川の増水や冠水被害が一部で発生しています。
- ・ 霊験寺をはじめとする寺社仏閣は、地域の観光資源としての期待が高いにも関わらず、訪れる人に対する案内所や休憩施設がなく、人々を滞留させる空間が不足しています。



▲地域の現況・課題図

(3) 地域の将来像

『定住できる豊かな住環境と利便性の高い工業地の共存・共栄』

笠松地域では、地域を象徴するトヨタ自動車九州をはじめとした工業地と、周辺の豊かな自然や田園地、集落の住環境との調和を図りながら、定住できる豊かな住環境と利便性の高い工業地の共存・共栄を進めていきます。

市の産業を担う地域として、今後も計画的な工場誘致を進めるとともに、暮らしやすい環境整備と既存集落周辺への宅地確保を行いながら、定住化を促進します。

工業地に関連した交通渋滞や交通安全といった各種課題の解消に努め、産業活動の効率化と安心して暮らせる環境整備を進めていきます。

(4) 地域づくりの方針

■土地利用

- ・ 豊かな自然や田園地の保存を図るとともに、工業地や住宅地としての魅力を向上し、多様な土地利用の共生を図ります。
- ・ 下有木の集落地では、工業地周辺における生活環境の改善を進め、生活道路、公園、下水道など生活基盤の整備や日用品販売店の定着を促進することにより快適な住環境の形成を図り、豊かで活力のある集落拠点の形成に努めます。
- ・ 自動車関連工業は市の重要な産業であるため、交通体系の整備とあわせて沿道の土地利用を有効活用し、工業拠点である宮田団地及び主要地方道 室木下有木若宮線沿線の工業地としての利便性の向上を図ります。
- ・ 農家減少などの農業に対する現況を的確に捉え、田園地の有効活用を図り農業振興に努めます。
- ・ 遊休地については、本市の活性化に寄与するような計画的な土地利用方法について検討を進めます。

■交通体系

- ・ 主要幹線道路と位置づけられる主要地方道 室木下有木若宮線、岡垣宮田線において、歩道整備などによる交通機能や安全性の強化を計画的に促進します。
- ・ 工業地の重要な物流基盤となる主要地方道 室木下有木若宮線の4車線化並びにバイパス整備を促進し、若宮インターチェンジやスマートインターチェンジ（整備中）へのアクセス強化を図るとともに、福丸下有木線の整備を推進し、若宮地区拠点との連絡強化を図ります。また、産業関連交通と地域内交通の分離を図り、工業地の利便性向上と安全な道路網整備を推進します。
- ・ 分断された地域のアクセス性の向上を図るため、既存道路を活用した対策を検討するとともに、歩道の整備や横断歩道及び信号機の整備などを推進し、歩行者の安全確保に努めます。
- ・ 公共交通機関である路線バスや、福祉施設送迎バスは、高齢者をはじめとした交通弱者の重要な交通手段であることから、市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などとの連絡維持・強化に努めます。また、バス路線が存続するよう、より一層の利用促進を図ります。

■公園・緑地

- ・ 工業地周辺に整備された桜並木などの景観を楽しめるよう、停車スペースやベンチなどの滞留空間の整備について、関係機関と協議・検討を進めます。
- ・ 市民の生活に密着し、子育てや地域のコミュニティ形成などの機能をもった身近な公園について、既存施設の活用方法を検討し、利用促進を図ります。

■その他の都市施設

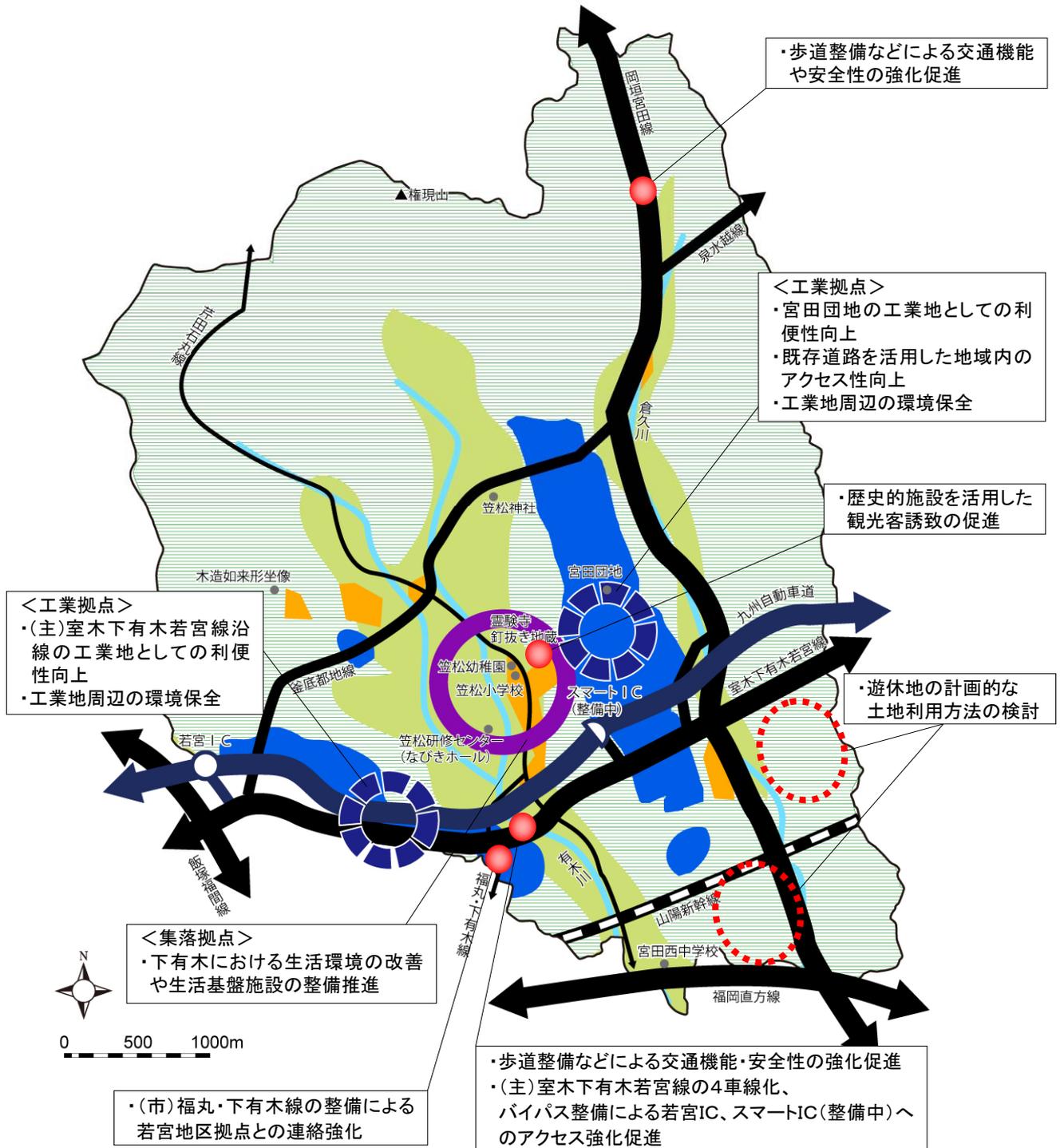
- ・ 上水道については、安全でおいしい飲料水を安定して提供するため、水源・水質の保全や水道施設の適切な維持・管理を行います。
- ・ 下水道については、公共下水道の早期整備を推進するとともに、下水道計画区域外においては合併処理浄化槽の設置を促進します。
- ・ 企業との公害防止協定を継続させるとともに、排水処理施設の適切な維持管理に努め、工業地周辺の環境保全を図ります。

■市街地整備

- ・ 笠松研修センター（なびきホール）を活用した研修イベントなどにより、人々の交流や生涯学習活動を促進します。
- ・ 集落拠点である下有木の集落地では、生活環境の改善や必要な生活基盤施設の整備を推進し、定住化を図ります。
- ・ 集落地内においては、狭隘な生活道路の改良、側溝蓋の敷設を推進するとともに、防犯灯の設置を促進し、歩行者の安全確保に努めます。

■都市景観・都市環境

- ・ 無秩序な開発や市街地の拡散を抑制するとともに、屋外広告物条例による規制誘導などを推進し、良好なまちなみ景観の形成に努めます。
- ・ 工業地、住宅地、田園地が共存できる地域を目指し、笠松地域環境対策会議をはじめとする地域団体を通じた植樹などの環境改善活動、河川の清掃活動、市民へのマナー啓発などを推進し、市民の美化意識の向上を図ります。
- ・ 地域資源である豊かな自然環境との調和を図るため、工業地周辺の緑地化を促進するなど、地域と一体となった環境整備に取り組みます。
- ・ 地域の観光資源となる霊験寺をはじめとした歴史的施設においては、案内板や滞留空間の整備について、関係機関との協議・検討を進めるとともに、積極的な情報発信により観光客誘致を促進します。
- ・ 豪雨時に冠水被害が発生している箇所については、関係機関と協議しながら災害対策を促進します。



0 500 1000m

<地域全体>

- ・生活基盤の充実による快適な住環境形成
- ・田園地の有効活用と良好な田園地の保全
- ・歩道、横断歩道、信号機の整備
- ・バス交通の市役所周辺の中心拠点や高速バス停留所、周辺市町の鉄道駅などへの連絡維持・強化、利用促進
- ・下水道の整備・合併処理浄化槽の設置促進
- ・環境改善活動や河川の清掃活動、マナー啓発などによる市民の美化意識の向上
- ・冠水被害の発生箇所における災害対策の促進

凡例

	低層系住宅市街地		集落地
	一般住宅市街地		田園地
	沿道型住商混在市街地		自然地
	商業業務地		水面
	工業地		広域幹線軸
	幹線軸		地域交流軸
	中心拠点		交流拠点
	地区拠点		自然交流拠点
	集落拠点		スポーツ・レジャー拠点
	工業拠点		

▲地域づくり方針図